

令和6年1月23日
教育環境課

区立学校のプール施設整備と水泳授業等のあり方について

1. 主旨

全区立小学校に設置されている屋外プール施設は、整備や維持管理に多くの経費を要し、その利用は1年を通して夏季のみに限られている。また、昨今の猛暑や豪雨（雷）等の気候変動に伴い、水泳授業が中止になる回数が増加するなど水泳授業の計画的な実施が難しくなっている。

安全な学習環境の確保を目的として、令和4年度にプール施設のケース別の検討において3つのケースを示した中間報告を行っている。また、「世田谷区公共施設等総合管理計画一部改訂（第2期）（案）」においても、学校施設のプールを共同利用することで維持管理経費の削減や敷地の有効活用等を図る、とされており、より効率的で効果的な公共施設運営を行っていくための共同利用を検討していくことが求められている。

この度これらの状況及びモデル校での実施結果を踏まえ、「区立学校のプール施設整備と水泳授業等のあり方」をとりまとめたので、報告するとともに、今後の学校改築等におけるプール施設整備及び水泳授業にあたっては、これに沿って進めていく。

なお、本件については今後の公共施設等総合管理計画一部改訂（第2期）の策定にあわせ、必要な見直しを行う。

2. 内容

別紙「区立学校のプール施設整備と水泳授業等のあり方」のとおり。

【プール施設整備のあり方】

今後自校整備を行う学校及びプール整備から年限を経ておらず、継続利用を行う学校については、遮熱対策等を行う。

今後改築対象校である学校については、各校のグラウンドの広さ、拠点校となる学校との距離等から、共同利用、自校整備、継続利用と分け、整備する。

共同利用とした学校については、拠点校を設け、グループ化し、拠点校に簡易温水プールを整備する。

拠点校におけるプール管理においては、管理委託（ボイラー・水質管理等）とする。

区民プールを活用した共同利用の調整を進める。

【水泳授業等のあり方】

学校におけるプール授業は、引き続き実施する。

共同利用により、移動が生じる小学校の水泳授業は教員の負担軽減を考慮し、委託を基本とする。

夏季水泳指導については、実施場所や内容等授業としての性質を含め、根本的な見直しを図っていく。

3．今後のスケジュール

令和6年2月 文教常任委員会

区立学校のプール施設整備と水泳授業等の あり方について

(概要版)

1 はじめに（抜粋）

全区立小学校に設置されている屋外プール施設は、整備や維持管理に多くの経費を要し、その利用は1年を通して夏季のみに限られている。また、昨今の猛暑や豪雨（雷）等の気候変動に伴い、水泳授業が中止になる回数が増加するなど水泳授業の計画的な実施が難しくなってきている。

他自治体ではインストラクターによる水泳指導や複数校によるプールの共同利用に切り替えるなど、これまでの水泳授業とプール施設のあり方を抜本的に変える岐路にもある。こうした中で、区では中長期的な視点を持って水泳授業の継続、プール稼働率の向上、維持管理コスト等複数の視点を踏まえ「区立学校のプール施設整備と水泳授業等のあり方について」をとりまとめた。

2 水泳授業の現状と課題

●水泳授業の目的と学習指導要領の位置づけ

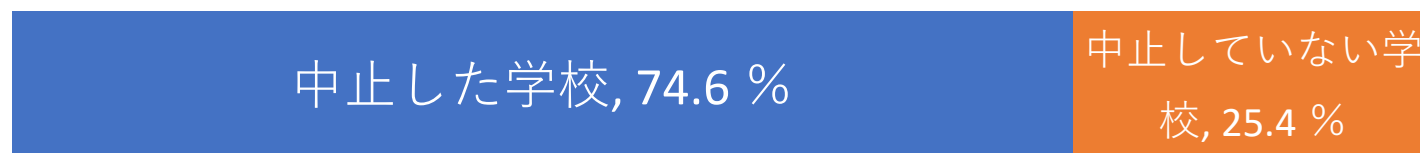
水泳は学習指導要領において小・中学校通じて取扱う内容として位置づいている。バランスの取れた全身運動であり、この時期に基本的な水泳技能を習得することは、児童・生徒の身体的な発達を促す教育的な効果が期待されるとともに、水難事故防止の観点からも効果的だといえる。

●現状と課題

【天候による影響】

○天候等（猛暑、低温、雨天）による中止学校数
※令和5年度中、1度でも天候等を理由にプール授業を中止した学校数

天候等による中止学校数（％）



【多数の学校が天候等の影響を受けている】

【学校での水泳指導】

○教員が指導するうえで、感じている課題について
（世田谷区立小・中学校）

- ①水泳授業を指導するには高い専門性が必要である。
- ②生命に直結することから、指導しながら、安全管理をすることに不安がある。
- ③配慮が必要な児童・生徒に注視することが難しい
- ④その他

指導するうえで感じている課題について（％）



【水泳指導に関しての専門性や、安全管理に課題を感じている学校が多数ある】

3 プール施設の現状と課題等

●小学校プール施設の現状

設置場所	屋上	校庭		
		平置き	埋込式蓋掛	体育館下
学校数（校）	32（改築中2校含）	26	2	1

築30年前後よりプールは屋上に設置している

築年数	50年以上	40年以上	30年以上	20年以上	10年以上	10年未満
学校数（校）	20	4	14	4	10	9
割合（％）	32.8	6.6	23.0	6.6	16.4	14.8

●プール施設の課題

- ・保護者からは、気候や天候、プライバシーの配慮などに左右されない環境や専任講師を配置した民間温水プール施設の使用を求める要望がある。
- ・学校からは、施設の老朽化やプール管理による負担の低減を求めている声が多く、屋内プールを希望する学校も多い。
- ・プール設備は常時水をためておく必要があることや年間の利用期間が限定的であることから、不具合の発見に伴って各種部分的、応急的な修理・補修を行っている状況にあるため、プール施設全体の機能改善に至らない場合が多い。

●区政モニターアンケートの実施

- ・「施設稼働率を上げて効率化を図るのであれば、屋内温水プール化にメリットを感じる」との回答が7割近くを占め最も多い。
- ・「共同利用はせず今までどおり小学校ごとに屋外プールを設置する必要があるを感じる」が1割に満たない結果となった。

4 モデル事業の実施内容と結果

●モデル事業の実施概要

【中学校屋内温水プール施設を複数の学校が共同利用した水泳授業】

- ・対象校：玉川小学校
玉川中学校
- ・活用施設：玉川中学校屋内温水プール施設
- ・実施時期：令和4年6月～9月
- ・水泳授業：学年を2分割、30回（*2コマを1回）
- ・水泳指導：民間事業者へ委託（指導員約10名）
- ・移動手段：徒歩11分程度（補助員1名）
- ・経費：約500万円（水泳指導委託料）

【民間プール施設を活用した水泳授業】

- ・対象校：瀬田小学校
- ・活用施設：コナミスポーツニ子玉川店
- ・利用方法：休館日（週1日）の貸し切り利用
- ・実施時期：令和4年6月～11月
- ・水泳授業：学年を2分割、19回（*2コマを1回）
- ・水泳指導：教員
- ・移動手段：徒歩15分程度
- ・経費：約400万円（施設使用料）

●玉川小学校および瀬田小学校の児童、教員、保護者へ行ったアンケート結果（抜粋）⁸

- ◆屋内プール施設の使用については児童・保護者・教員とも満足度が高い。
- ◆水泳授業については保護者からは、回数をもっと増やしてほしいという声が多い反面、教員からは指導期間や回数、時間割の調整等カリキュラムへの課題があるとの指摘が多い。
- ◆移動については児童からは、移動による負担を感じていないとの声が多いが、教員からは、移動中における安全面の課題があるとの声が多い。
- ◆水泳指導の民間事業者への委託について（玉川小学校のみ）は児童・保護者・教員ともに委託による指導について満足度が高いが、教員からは、指導内容など民間事業者との打合せに課題があるとの声がある。

●モデル事業での総評

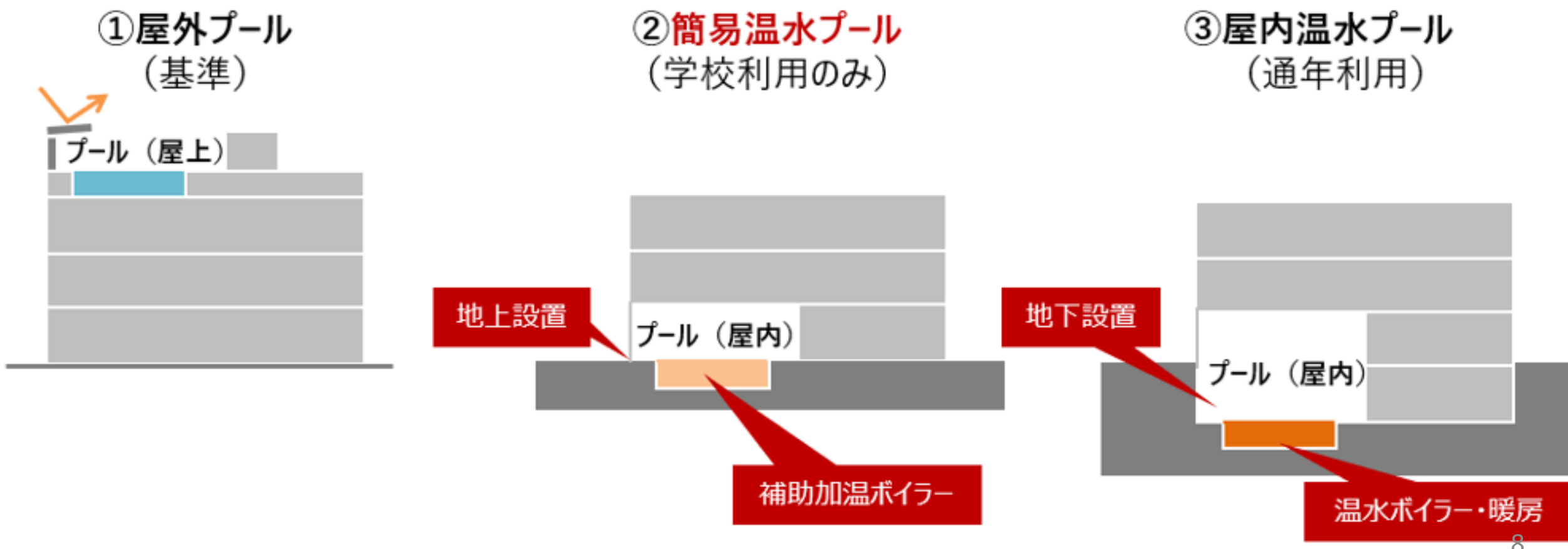
- ◆既存屋内温水プールの積極的な活用を前提に検討を進め、自校以外のプールを利用する場合は移動時間が生じ、効率的な水泳授業が求められることから、水泳指導の委託化を基本とする。
- ◆民間事業者による水泳指導は、教員の負担軽減や児童の泳力向上に効果が期待できることが確認できた。
- ◆移動に関しては、児童・保護者からは10～15分程度の移動時間に関して、概ね受け入れられるとの回答が多かった一方で、教員からは移動中の安全面に関する課題が指摘された。これよりプールの共同利用にあたっては、移動中の安全対策の強化策や、1 km程度を児童の可能徒歩圏域と想定する。
- ◆移動時のバス利用はバス待機場所への移動や乗車に時間を要することから、原則、徒歩による移動とする。

5 学校プール施設整備の考え方

●学校プール施設整備の検討

- ◆屋外プールと屋内温水プールの概算経費は1 / 1.2程度と大きな開きがあり、費用対効果を考えると複数校に屋内温水プールを設置することは財政的に困難
- ◆プール稼働期間を延ばし、低コストで複数校利用できるプールの実現を目指し、プールを室内に配置し、プール水を補助的に加温して夏季以外にも利用期間が拡大できるよう「簡易温水プール」を加えて検討を実施した。

◆プールの比較（イメージ）



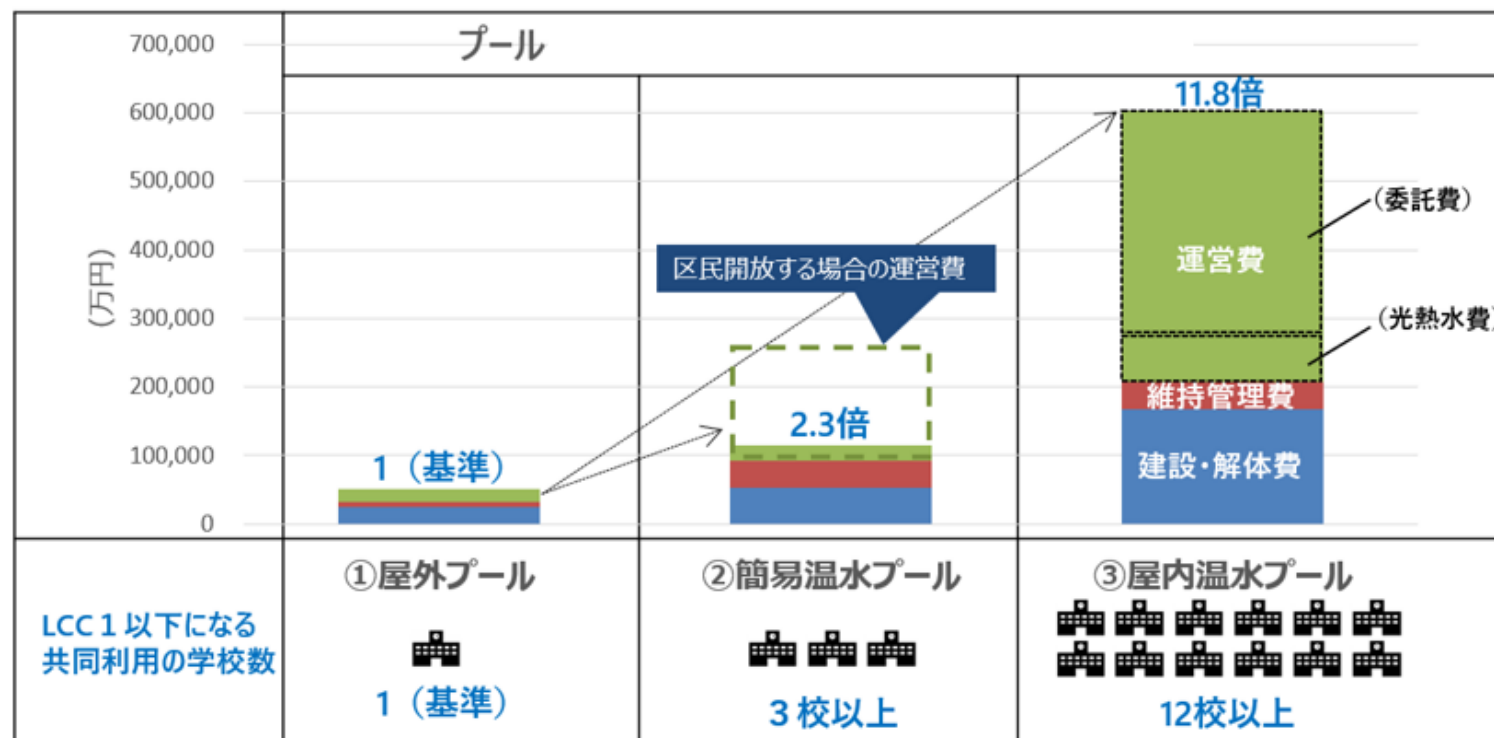
◆ライフサイクルコスト（65年）によるコスト比較（令和5年度時点）

施設	屋外プール (可動床有)	簡易温水プール (可動床有)	中学校屋内温水プール (可動床有、地下階)
利用形態	水泳授業のみ (6月中旬～9月上旬)	水泳授業のみ	水泳授業、 部活動、区民利用(通年)
①建設経費 (新設・解体費)	約2億5,000万円	約5億5,000万円	約16億7,500万円
②維持管理経費 (改修費, 塗装費)	約7,700万円	約3億8,600万円	約3億8,600万円
③運営経費 (点検, 清掃, 水道代等)	約285万円/年 (約1億8,600万円)	約350万円/年 (約2億2,750万円)	約6,100万円/年 (約39億6,300万円)
概算経費計	約790万円/年 (約5億1,300万円)	約1,770万円/年 (約11億4,850万円)	約9,270万円/年 (約60億2,400万円)

例えば屋外プールを1(基準)としたコスト比較では、簡易温水プールは2.3倍となり、3校で共同利用をした場合、屋外プールを個別で3校利用した場合と比較すると、1年あたりの経費削減効果は3校で約600万円の見込みとなる。

算定例：790×3校=2,370万円
2,370-1,770=600万円

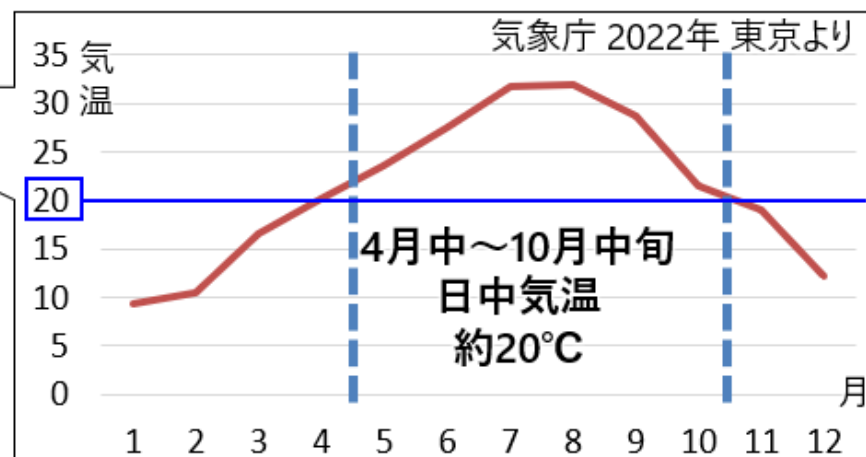
しかし、水泳指導や移動補助員等の費用は別途換算が必要である。



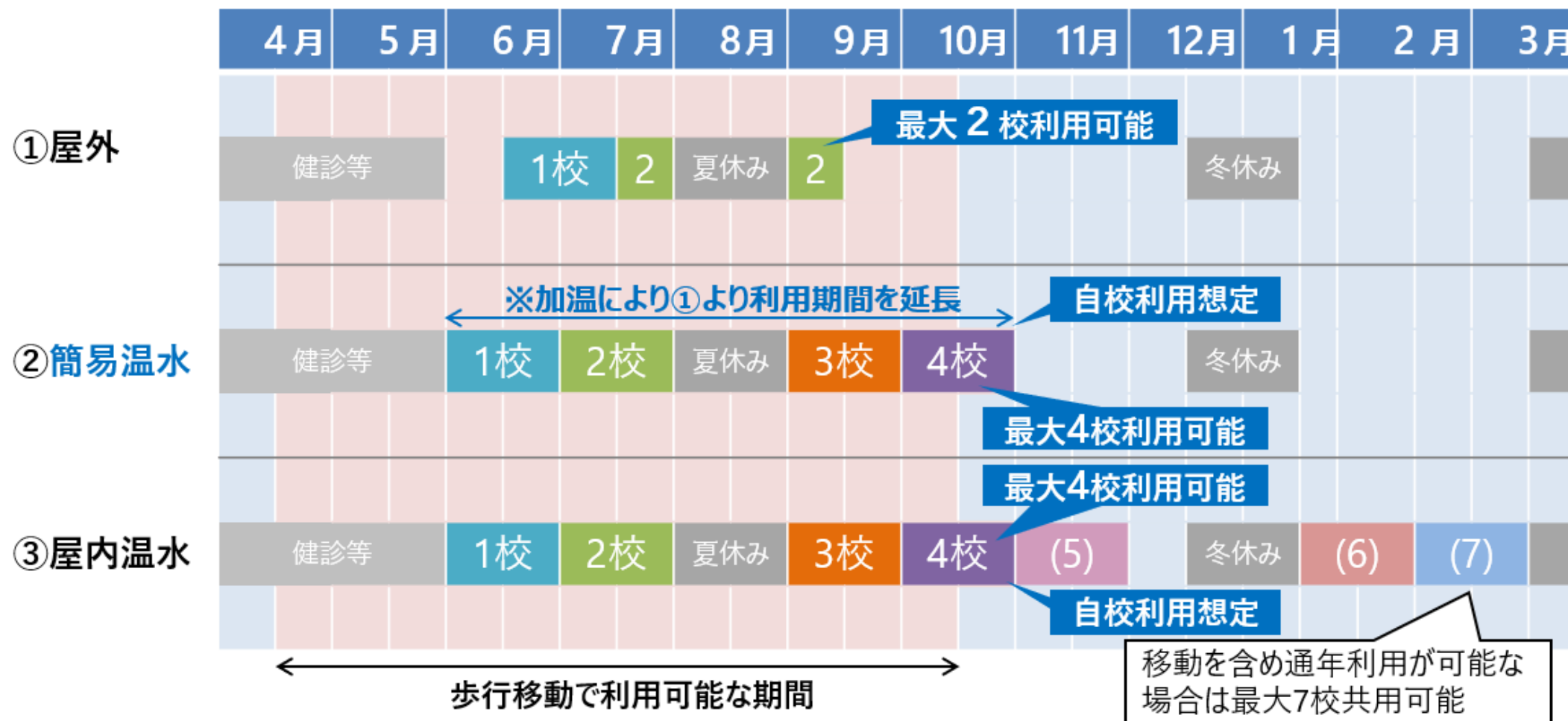
◆プール別の共同利用対応期間の想定

「簡易温水プール」の共同利用可能数を算出すると、日中気温が約20℃以上になる4月中旬から10月中旬までの約6カ月間を歩行可能期間として想定する。健康診断や運動会、運動測定等春の行事が概ね終了する6月からプール授業開始を基準にすると、3～4校が共同利用できる結果になる。

- 歩行可能な条件を気温20℃以上とした場合
 期間は4月中～10月中
 (10月後半は20℃を下回るため自校利用想定)
- プール授業回数5回想定
- 1回授業当たり1学年2コマ利用想定



プールのタイプと対応利用期間



● 共同利用拠点プールの前提条件および共同利用候補校の抽出条件

前提条件

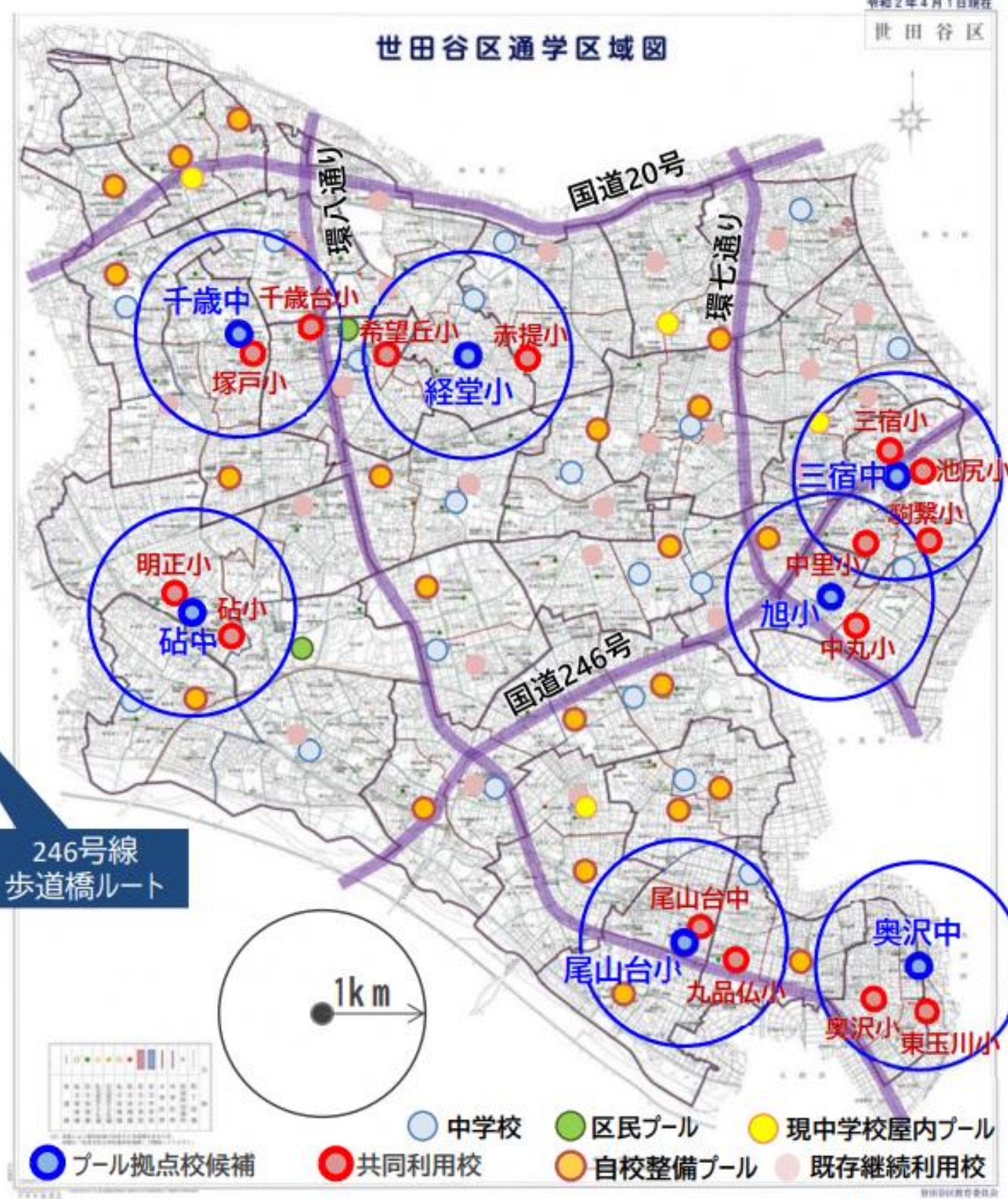
- ①簡易温水プールを前提とする
- ②自校以外のプールを利用する際は、移動中の安全対策の強化を行う
- ③自校以外のプールを利用する際は移動時間が生じ、効率的な水泳授業が求められることから、水泳授業の委託化を基本とする
- ④複数校でプールを利用するため、水質管理等の管理委託を検討する

抽出条件

- ①継続利用可能な屋上プール（可動床）を設置している小学校は除外する
 - ②既存の区民開放利用中の屋内温水プールの中学校は、学校共用拠点プールにしない
 - ③バスの利用は考慮せず、徒歩1 km圏内（最大15分以内）とする。その際、長い坂道や幹線道路横断などの要因も考慮する
 - ④拠点校は敷地にゆとりがあり部活動でも活用できる中学校を軸とするが、抽出したグループ内で改築年次が早い学校を拠点校とする
- 以上より、①～④の条件でかつ、3～4校共同利用できる候補校の抽出を実施した

プール拠点校までの歩行距離一覧表（机上検討）

拠点校	共同利用校	歩行距離
1 砧中	明正小	270m
	砧小	400m
2 尾山台小	九品仏小	400m
	尾山台中	80m
3 奥沢中	奥沢小	650m
	東玉川小	450m
4 千歳中	塚戸小	240m
	千歳台小	650m
5 経堂小	赤堤小	650m
	希望丘小	850m
6 旭小	中里小	700m
	中丸小	450m
7 三宿中	三宿小	350m (1,000m)
	池尻小	170m
	駒繫小	750m



従来方式の全校自校



共同利用合理化案

※上記学校数は小学校のみを示す

●簡易温水プール共同利用における効果と課題

効果

- ・ 65年のライフサイクルコストでは経費削減が見込まれる
- ・ インストラクターに水泳授業を委託しても、一部経費相殺効果が見込まれる
- ・ 教員の負担軽減（プール授業の一部委託、プール管理・運営）
- ・ プール跡地を有効活用できる
- ・ 学校利用を前提としているが、空いている時間帯は地域利用ができる可能性もある

課題

- ・ 共同利用を想定しているグループ内では、敷地にゆとりがある中学校の改築年次より、小学校改築年次が早い傾向がある
- ・ 子供の安全確保（拠点校までの移動経路（距離、高低差、大通り）、真夏の移動時の熱中症対策）
- ・ 共同利用する拠点校と拠点校以外の学校（教員）や保護者の理解
- ・ 複数校での教員によるプール授業の調整（教員の負担増）
- ・ 自校にプールが無くなる小学校の夏休み水泳教室の実施
- ・ プール授業の質と量の低下の懸念

プールの共同利用により期待される効果が大きい一方、実施に向けた課題も多い

● 検証：奥沢中を拠点とした簡易温水プールの共同利用（奥沢小と東玉川小）の例として検証

- ・ 対象校：奥沢中学校（生徒数：151人）
奥沢小学校（児童数：438人）
東玉川小学校（児童数：382人）
- ・ 移動手段：奥沢小学校 徒歩13分程度※
東玉川小学校 徒歩9分程度※
※大人では80m/分のところ50m/分で計測
- ・ 実施時期：6月～10月
- ・ 利用方法：小学校と中学校の水泳授業のカリキュラムを調整して利用
- ・ 水泳授業：5回（2コマを1回）



◆共同利用による授業の割振り（想定）

- ・ 7月 は梅雨及び酷暑を想定し、拠点校として移動がない奥沢中で設定
- ・ 中学校は自校のため予備日なし
小学校は週1日の予備日を設定
- ・ 小中学校共午後は予備的に授業を入れていないため調整の余地を残している
- ・ 中学校は期末試験を3日間想定している

6月

時間	日	月	火	水	木	金	土
1~2					1 小1①	2 小3①	3
3~4					小2①	小4①	
5~6							
1~2	4	5 小5①	6 小1②	7 予備	8 小3②	9 小5②	10
3~4		小6①	小2②		小4②	小6②	土曜日授業
5~6							
1~2	11	12 小1③	13 小3③	14 予備	15 小5④	16 小1④	17
3~4		小2③	小4③		小6④	小2④	
5~6							
1~2	18	20 小3④	20 小5④	21 予備	22 小1⑤	23 小3⑤	24
3~4		小4④	小6④		小2⑤	小4⑤	
5~6							
1~2	25	27 小5⑤	27 予備	28 中1男①	29 中2男①	30 中3男①	
3~4		小6⑤		中1女①	中2女①	中3女①	
5~6							

7月

時間	日	月	火	水	木	金	土
1~2							1
3~4							
5~6							
1~2	2	3 中1男②	4 中2男②	5	6	7	8
3~4		中1女②	中2女②	(仮)試験	(仮)試験	(仮)試験	土曜日授業
5~6							
1~2	9	10 中3男②	11 中1男③	12 中2男③	13 中3男③	14 中1男④	15
3~4		中3女②	中1女③	中2女③	中3女③	中1女④	
5~6							
1~2	16	17	18 中2男④	19 中2男④	20	21	22
3~4			中2女④	中2女④			
5~6							
1~2	23	24	25	26	27	28	29
3~4							
5~6							
1~2	30	31					
3~4							
5~6							

9月

時間	日	月	火	水	木	金	土
1~2						1	2
3~4							
5~6							
1~2	3	4 中1男⑤	5 中2男⑤	6 中3男⑤	7 小1①	8 小3①	9
3~4		中1女⑤	中2女⑤	中3女⑤	小2①	小4①	土曜日授業
5~6							
1~2	10	11 小5①	12 小1②	13 予備	14 小3②	15 小5②	16
3~4		小6①	小2②		小4②	小6②	
5~6							
1~2	17	18	19 小1③	20 予備	21 小3③	22 小5③	23
3~4			小2③		小4③	小6③	
5~6							
1~2	24	25 小1④	26 小3④	27 予備	28 小5④	29 小1⑤	30
3~4		小2④	小4④		小6④	小2⑤	
5~6							

10月

時間	日	月	火	水	木	金	土
1~2	1	2 小3⑤	3 小5⑤	4 予備	5	6	7
3~4		小4⑤	小6⑤				
5~6							
1~2	8	9	10	11	12	13	14
3~4							土曜日授業
5~6							
1~2	15	16	17	18	19	20	21
3~4							
5~6							
1~2	22	23	24	25	26	27	28
3~4							
5~6							
1~2	29	30	31				
3~4							
5~6							

- 効果**・ 3校活用で約600万円/年の経費削減を見込める
- ・ 奥沢小、東玉川小は、プール施設管理（水質管理）の負担が無くなる
 - ・ 運用がうまくいけばプールを解体し跡地を有効活用ができる
- 課題**・ 児童の移動経路の安全管理
- ・ 授業の調整：各学校の行事等による都合もあるため、学校間の調整や学校内での調整が必要になる。
 - ・ 小学校の夏休み水泳教室の実施についての検討が必要になる

● プール共同利用以外の学校のプール運営

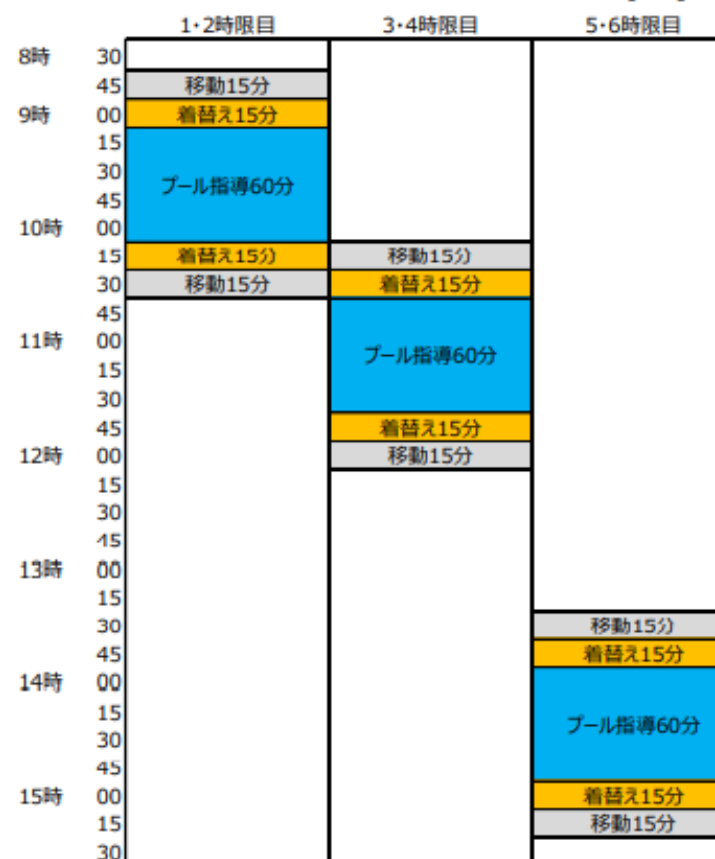
◆ 民間施設休館日活用及び民間施設開館前活用による実施スケジュール（案）

① 民間施設活用について

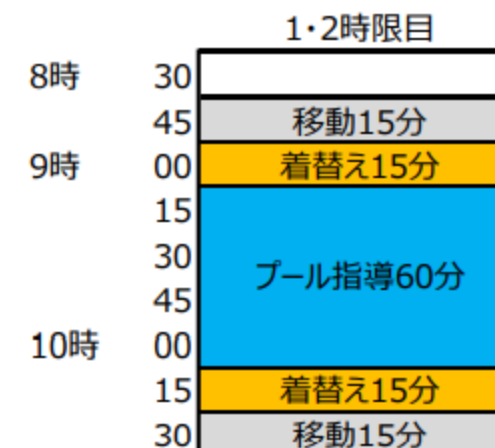
プールの共同利用校に該当せず、敷地が狭小で改築の際プール設置が難しい学校や、当面改築計画はないが、プールを先行解体することでプール敷地を有効活用することが効果的な学校は、民間施設活用も視野に入れながら改築計画を進める。

なお、民間施設が撤退した場合は、バスを利用し中学校温水プールや区立温水プール活用に切り替えることを想定する。

休館日での実施スケジュール(例)



営業日での実施スケジュール(例)



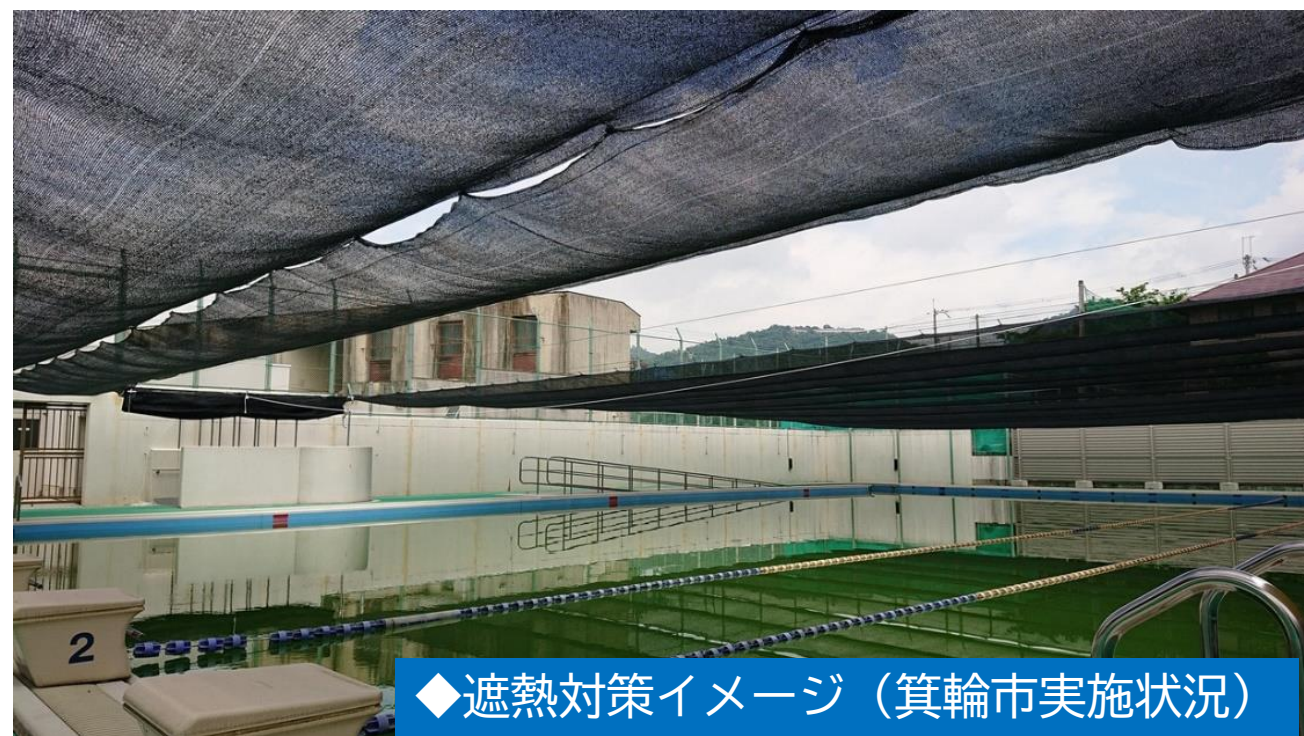
出典：ルネサンス学校水泳授業民間活用オンライン説明会資料

② 区営プールの活用（大蔵、千歳）

広く区民利用がなされており現在学校プールとして利用は行っていない。今後は指定管理者との契約内容見直しの機会をとらえ、利用枠の調整など、近隣小学校との共同利用の調整を進める。

③遮熱対策

共同利用校に該当せず、今後改築の際、自校にプール設置する学校や既存継続利用の学校には遮熱対策を進める。遮熱対策は複数校でモデル事業を実施し、効果を検証したうえで実施に向け対応を進める。



◆遮熱対策イメージ（箕輪市実施状況）

④暑熱対策

暑熱対策として、上部からのミストによる散水やプールサイドに灌水装置を設置し、はだしで歩く際の熱対策、手動で開く簡易テントの設置など、効果が期待される暑熱対策を進める。



◆暑熱対策イメージ（ミストシャワー）

6 授業以外でのプール運営についての対応

(1) 夏季水泳指導

夏季休業中の水泳教室（夏季水泳）は、各小・中学校の任意実施であり、年間指導計画等の学校カリキュラムの中には設定されておらず、参加も任意になっている。

しかし、実施する場合は基本的に水泳授業と同様の対応が必要であり、各学校の任意実施でありながら学校負担は大きい。

今後、プールの共同利用に伴い小学校にプールがない学校も出てくることや、教員の働き方改革を推進する観点からも、夏季水泳指導のあり方について見直す必要がある。

併せて、小学校による水泳教室から児童のみが利用する開放プールに切り替えていくことも視野に入れながら対応の検討を進める。

(2) 学校開放

区は温水プールがある区立中学校（太子堂、玉川、烏山、梅丘）を通年、一部の中学校は夏季休業中（令和5年度は弦巻、松沢、駒沢、北沢、八幡、緑丘、駒留、喜多見）にプール開放を行っている。学校プールは、校庭や体育館と同様に地域での活用が期待される施設でもあるため、今後、簡易温水プールが整備されれば開放施設とするか検討が必要になる。

(3) 災害時の生活用水等の確保

学校プールは災害時に生活用水や消火用水としての役割が期待される。学校プールを整備しない場合は、新校舎の基礎ばり部分等を貯水槽として活用し、避難所運営や消防水利の指定等に支障がないよう危機管理部災害対策課、各支所地域振興課や地域（町会・自治会）、消防署との調整が必要になる。

区立学校のプール施設整備と水泳授業等の あり方について

世田谷区教育委員会

令和6年3月

目次

- 1 はじめに
- 2 水泳指導の現状と課題
 - (1) 水泳指導の目的と学習指導要領の位置づけ
 - (2) 現状と課題
 - (3) 水泳授業に対する基本的な考え方
 - (4) 教員の役割
- 3 プール施設の現状と課題等
 - (1) 小学校プール施設の整備状況（令和5年度時点）
 - (2) 区施設の屋内温水プール施設の状況
 - (3) プール施設の課題
 - (4) 区政モニターアンケートの実施
- 4 モデル事業の実施内容と結果
 - (1) モデル事業の実施概要
 - (2) モデル事業の実施結果
- 5 学校プール施設整備の考え方
 - (1) プール施設のあり方の検討において留意すべき視点とケース別の検討
 - (2) 学校プール施設整備の検討
 - (3) 共同化拠点プールの条件および共同化利用候補校の抽出
 - (4) プール共同利用における効果と課題
 - (5) プール共同利用以外の学校のプール運営
- 6 授業以外でのプール運営についての対応
 - (1) 夏季水泳指導
 - (2) 学校開放
 - (3) 災害時の生活用水等の確保

巻末資料

- ・ 小学校プール施設の整備状況一覧
- ・ モデル事業の児童・教員・保護者アンケート結果
- ・ 「小学校プール施設のあり方の検討」に関する小中学校へのアンケート結果
- ・ 区内屋内温水プール施設配置図

1 はじめに

全区立小学校に設置されている屋外プール施設は、整備や維持管理に多くの経費を要し、その利用は1年を通して夏季のみに限られている。また、昨今の猛暑や豪雨（雷）等の気候変動に伴い、水泳授業が中止になる回数が増加するなど水泳授業の計画的な実施が難しくなっている。

このような状況を踏まえ、令和2年度において、自校以外のプール施設を活用した水泳授業のモデル実施を予定していたが、コロナ禍における水泳授業の中止などを受けて、令和4年度に複数の学校でのプール施設の共同利用や民間施設の活用の可能性を検証検討するモデル事業を本格実施した。

モデル事業の試行は、令和3年9月に一部改訂された「世田谷区公共施設等総合管理計画」において、重点方針の一つに位置付けられている。

他自治体ではインストラクターによる水泳指導や複数校によるプールの共同利用に切り替えるなど、これまでの水泳授業とプール施設のあり方を抜本的に変える岐路にもある中で、区では中長期的な視点を持って水泳授業の継続、プール稼働率の向上、維持管理コスト等複数の視点を踏まえ「区立学校のプール施設整備と水泳授業等のあり方について」について検討を進める。

2 水泳授業の現状と課題

（1）水泳授業の目的と学習指導要領の位置づけ

水泳はバランスの取れた全身運動であり、小・中学校の時期に基本的な水泳技能を習得することは、児童・生徒の身体的な発達を促す教育的な効果が期待されるとともに、水難事故防止の観点からも効果的だといえる。また、シュノーケリングなどのマリンスポーツを楽しむことや生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現、健康づくりにもつながる。

学習指導要領においては、発達段階に応じた水泳指導の目標を定めており、小学校では、低学年の「水に慣れる運動遊び・浮く・もぐる遊び」、中学年の「浮く運動・泳ぐ運動」、高学年の「クロール、平泳ぎ、安全確保につながる運動」で幅広い水泳に関する動きの学習を行うこととしている。

また、中学校では、第一学年及び第二学年には泳法を身に付けることをねらいとした学習を行い、第三学年では効率的に泳ぐことをねらいとした学習を行うこととしている。

（2）現状と課題

世田谷区での水泳授業は、年間10単位時間程度を基本とし、概ね6月から9月にかけて実施している。（小学校は2時間連続で5回程度、中学校は1時間ごとに10回程度の実施）

各小・中学校では、天候による影響も考慮し余裕を持った水泳指導の計画をたて、

年間10単位時間程度の授業時間を確保している。また、多くの学校で水難事故防止の観点から着衣のまま水に入った場合の対処方法の指導を取り入れている。

【天候による影響】

水泳授業を実施する6月、7月、9月は梅雨や台風シーズンと重なることから雨天も多く、さらに近年の気候変動により、猛暑やゲリラ豪雨といった事象が以前よりも発生するようになってきている。

このことにより各小・中学校に設置している屋外プールでの計画的な授業実施が困難になっており、予定していた授業時数を確保できないことがある。

○近年の梅雨入り・梅雨明け情報（関東甲信越）

	令和5年	令和4年
梅雨入り	6月8日頃	6月6日頃
梅雨明け	7月22日頃	7月23日頃

○近年の台風発生数と上陸数（日本に上陸した台風）

	令和4年	令和3年
発生数	25	22
上陸数	3	3

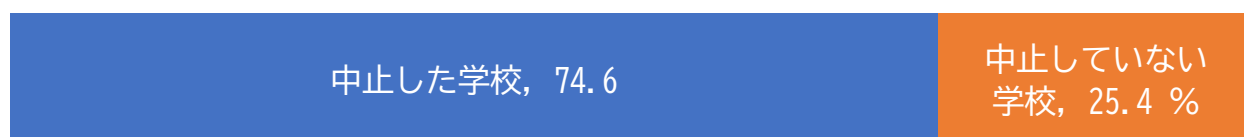
○天候等（猛暑、低温、雨天）による中止学校数（世田谷区立小学校屋外プール校）

※令和5年度中、1度でも天候等を理由にプール授業を中止した学校数

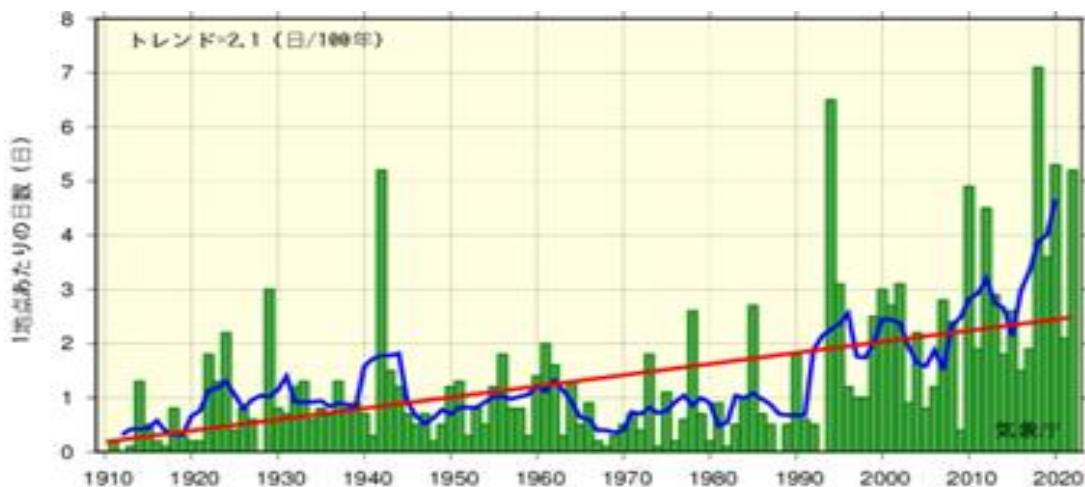
屋外プールで水泳授業を実施している小学校において、天候等により「中止した学校」は全体の74.6%（猛暑による中止学校数は45.7%）であり、多数の学校が天候等の影響を受けている。

天候等による中止学校数（%）

■中止した学校 ■中止していない学校



○【全国13地点平均】日最高気温35℃以上の年間日数（猛暑日）
 （全国平均でも、年々猛暑日の日数が増加しており、今後も猛暑による中止が増加していくことが見込まれる。）



棒グラフ（緑）は各年の年間日数を示す（全国13地点における平均で1地点あたりの値）。折れ線（青）は5年移動平均値、直線（赤）は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。

※気象庁ホームページより

【学校での水泳授業】

現在、世田谷区では、原則、各小・中学校に設置したプールで教員が水泳指導を行っている。授業の際には、水泳指導と同時に安全管理に注意を払う必要があり、常にプールサイドや水中から監視している。また、特に小学校においては、全ての教員が必ずしも水泳指導を専門としていないため、専門的な技術指導が難しい場合もある。

○教員が指導するうえで、感じている課題について（世田谷区立小・中学校）
 （水泳指導に関しての専門性や、安全管理に課題を感じている学校が多数ある）

指導するうえで感じている課題について (%)

- ①水泳授業を指導するには高い専門性が必要である。
- ②生命に直結することから、指導しながら、安全管理をすることに不安がある。
- ③配慮が必要な児童・生徒に注視することが難しい
- ④その他



その他、各小・中学校に設置してある屋外プールでは、直射日光による日焼けや、周囲からののどきなどに不安を感じるという声もある。そのため、ラッシュガードの着用や日焼け止めの使用、プールサイドへの日よけ、目隠しの設置といった対応を行っている。

(3) 水泳授業に対する基本的な考え方

世田谷区では、学習指導要領に則り、現状の課題に対する対策を行いつつ、区立小・中学校における水泳授業を今後も継続していくことを基本とする。

(4) 教員の役割

水泳授業は、学校教育の一環として実施しており、指導には、教員が主体的に関わり、水泳指導の充実という観点から地域の人的・物的資源の活用について検討し、連携・協力に取り組むことが求められる。

3 プール施設の現状と課題等

(1) 小学校プール施設の整備状況（令和5年度時点）

（巻末資料：P24 小学校プール施設の整備状況一覧参照）

◆区立小学校プール施設の整備状況

①設置場所

	屋上	校庭		
		平置き	埋込式蓋掛	体育館下
学校数（校）	32（改築中2校含）	26	2	1

②プール施設の築年数

	50年以上	40年以上	30年以上	20年以上	10年以上	10年未満
学校数（校）	20	4	14	4	10	9
割合（%）	32.8	6.6	23.0	6.6	16.4	14.8

*改築中2校（池之上小、瀬田小）は、10年未満に計上

*割合は、小数第2位四捨五入

小学校のプール施設は、これまで、校庭の一部に整備されてきた経緯があるが、現在は、校庭面積を可能な限り広く確保するため、改築時には、校舎等の屋上に整備し、プールサイドに庇を設置するとともに、水深を調整するための可動床の採用を基本としている。

校庭の一部にプール施設が整備されている学校では、隣地や道路からの視線を遮るために目隠しフェンス等を設置し、プライバシーを確保している。

(2) 区施設の屋内温水プール施設の状況

(【別図1】区内屋内温水プール施設配置図参照)

◆区立屋内温水プール施設

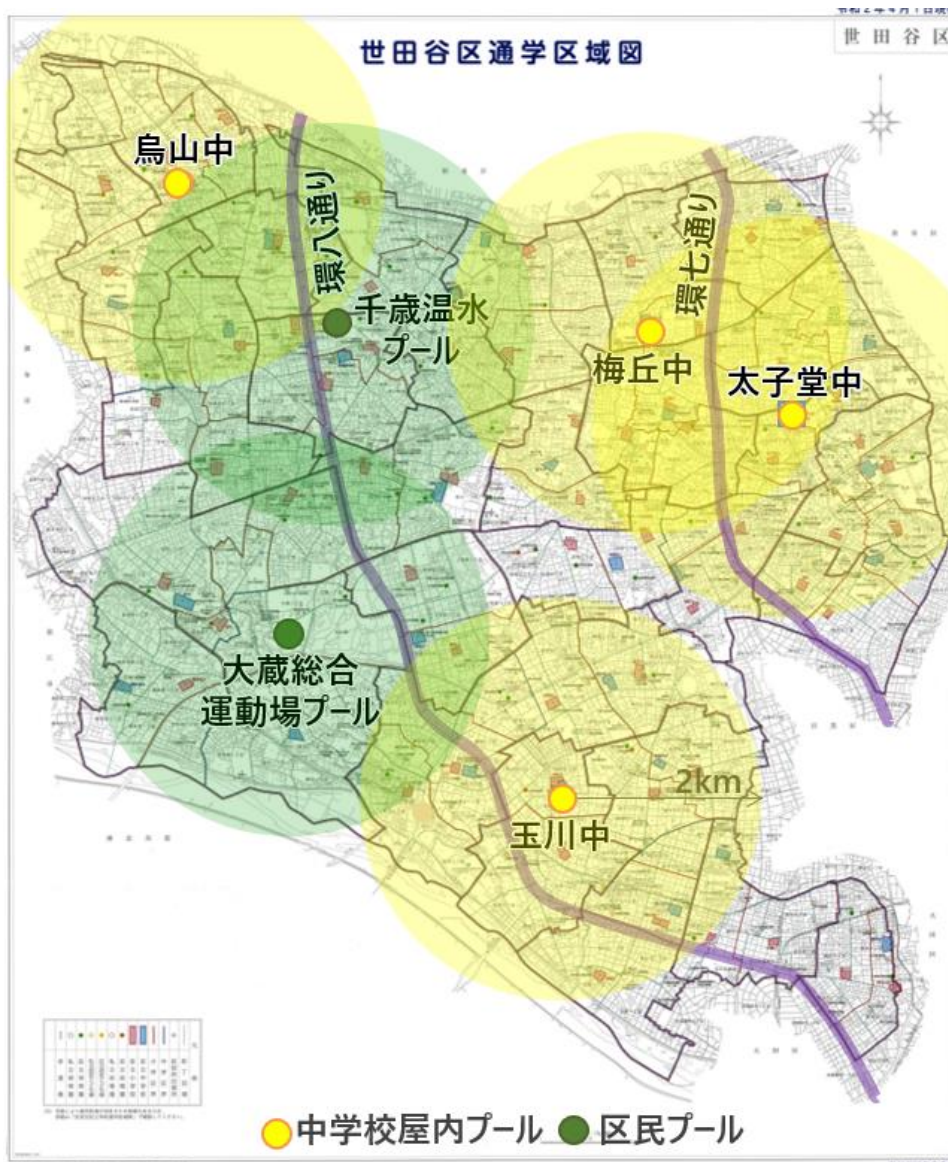
施設	
中学校プール施設	4校(太子堂、梅丘、玉川、烏山)
区民プール施設	2施設(総合運動場、千歳)

【参考】民間プール施設：10施設程度

*プール施設を有するスポーツクラブのみとし、スイミングスクールは除く

区施設の屋内温水プール施設は、区内5地域に分散されているが、区民の利便性(移動距離2kmと想定)を考慮すると、区中心部や南東部に空白地域が生じている。

◆区内屋内温水プール施設範囲図(半径2km圏内)



中学校屋内温水プール施設は、中学校の水泳授業（6月～9月の平日）や部活動以外の時間帯は、幼児から大人まで幅広く区民利用されている。令和4年度における4校の利用数は下記のとおりであるが、利用者数の割合は、大人が約50%と利用が多く、65歳以上の方及び障害のある方が約20%、また、団体利用が約20%となっている。

◆【令和4年度の利用者数実績】

- ・太子堂中学校：38,538人／年※（月平均 3,853人）
 - ・梅丘中学校：58,729人／年（月平均 4,894人）
 - ・烏山中学校：39,098人／年（月平均 3,258人）
 - ・玉川中学校：47,313人／年（月平均 3,942人）
- ※太子堂中学校は1・2月未稼働

（3） プール施設の課題

保護者からは、一年を通じて水泳授業を気候や天候に左右されず、また、水泳指導についても、専任講師を配置した民間温水プール施設の使用を求める要望が寄せられている。

また、令和5年度に学校へ実施した「今後の水泳授業の施設について」のアンケートでは、近年改築済で可動床付きの屋上プールを活用している学校は移動時間の負担を考え自校プールの活用を望む学校が多い。しかし、校庭の一部をプール利用している比較的古い学校は、施設の老朽化やプール管理による負担の低減を求めている学校が多く、屋内プールを希望する学校が多かった。

プール槽については、学校のプールが防火用水に指定されていることや、プール槽の劣化を防止するために、常時水をためておく必要があり、水の入れ替えには一定の費用を要することから、頻繁には点検を行えない状況である。

また、更衣室やトイレなどプール付帯施設については、年間の利用期間が限定的であることから、校舎棟や屋内運動場等の修繕が優先される傾向にある。

こうした現状から、不具合の発見に伴って各種部分的、応急的な修理・補修を行っているものの、プール施設のみに焦点をあてた計画的な改修・修繕ではなく、校舎棟や体育館棟の大規模改修等にあわせて、できる対応を行っている状況にあるため、プール施設全体の機能改善に至らない場合が多い。

（4） 区政モニターアンケートの実施

令和5年9月に実施した第3回区政モニターアンケートにおいて、小学校プールの共同利用についてアンケートを行った。

複数の小学校で共同利用するための屋内プール建設についてどう思うかを聞いたところ（複数回答）、「施設稼働率を上げて効率化を図るのであれば、屋内温水プール化にメリットを感じる」との回答が7割近くを占め最も多く、次いで「共同利用の場合は、スポーツクラブなど民間プールなどもフル活用するのが良い」「共同利用の場

合は、児童が徒歩で行き来できる距離で新たな屋内温水プールを建設し利用するのが良い」があわせて約7割、「共同利用はせず今までどおり小学校ごとに屋外プールを設置する必要を感じる」が1割に満たない結果となった。

共同利用に関しては、他校のプールへ移動することによる児童や教職員への負担や安全確保を懸念する声がある一方、コスト面や維持管理の有利性から支持する意見が寄せられた。

屋内温水プール化については、年間を通じて天候の影響を受けず利用が可能になることから、猛暑など近年の気候変動に対する懸念などもあり支持する意見が寄せられたとともに、区民利用にも供することで稼働率を上げたほうが良いとの声もあり、建設費だけでなくランニングコストに対する関心の高さも見られる。

屋外プールの全校設置については、稼働期間が短いことや、近年の猛暑でさらに利用日が減少していることによる維持管理コストの高さや、熱中症を懸念する声があった反面、屋外プールのほうが泳ぐことの楽しさを感じるなどの意見も寄せられた。

区政モニターアンケート結果においては、屋内温水プール化による共同利用について、概ね理解が得られていることが読み取れる。

4 モデル事業の実施内容と結果

(1) モデル事業の実施概要

■中学校屋内温水プール施設を複数の学校が共同利用した水泳授業

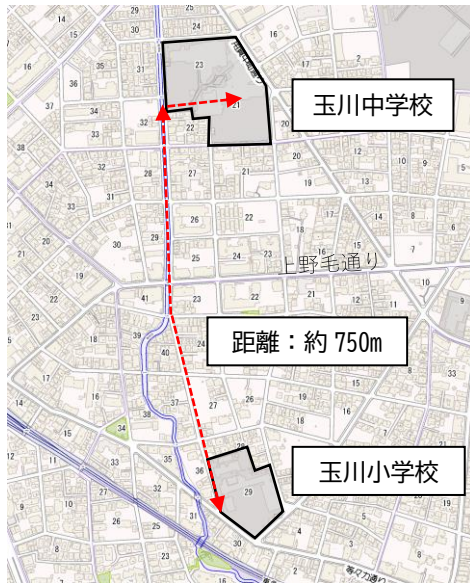
- ・ 対象校：玉川小学校（児童数：757人 令和4年度5月1日時点）
玉川中学校（生徒数：360人 令和4年度5月1日時点）
- ・ 活用施設：玉川中学校屋内温水プール施設（施設管理・運営は委託）
- ・ 利用方法：小学校と中学校の水泳授業のカリキュラムを調整して利用
- ・ 実施時期：令和4年6月～9月
- ・ 水泳授業：学年を2分割、30回（*2コマを1回）
- ・ 水泳指導：民間事業者へ委託（指導員 約10名）
- ・ 移動手段：徒歩11分程度（補助員1名）
- ・ 経費：約500万円（水泳指導委託料）

■民間プール施設を活用した水泳授業

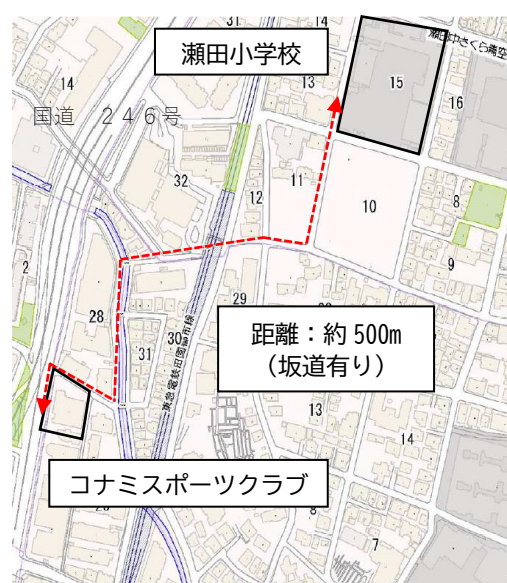
- ① 対象校：瀬田小学校（児童数：789人 令和4年度5月1日時点）
- ② 活用施設：コナミスポーツ二子玉川店
- ③ 利用方法：休館日（週1日）の貸し切り利用
- ④ 実施時期：令和4年6月～11月
- ⑤ 水泳授業：学年を2分割、19回（*2コマを1回）
- ⑥ 水泳指導：教員
- ⑦ 移動手段：徒歩15分程度
- ⑧ 経費：約400万円（施設使用料）

＊周辺地図

【玉川小学校】



【瀬田小学校】



(2) モデル事業の実施結果

自校以外のプールを活用する際の水泳授業や移動などの課題を把握するため、令和4年10・11月に、玉川小学校および瀬田小学校の児童、教員、保護者へアンケートを実施した。

アンケート結果等を踏まえた課題と評価は以下のとおりである。

【課題別の評価】

①自校以外の屋内プール施設の使用について（ハード面）

- ・児童・保護者・教員ともに屋内温水プール施設の満足度が高い。
- ・教員からは、施設の維持・管理における負担の軽減が図られたとの評価が高い。
- ・民間施設には可動床が設置されていないため、置き型の台の設置では安全面に不安があり、低学年の授業を見送ったケースが見られた。

②水泳授業について（ソフト面）

- ・児童からは、プールでの運動時間が十分に確保されているとの評価が高い。
- ・保護者からは、回数をもっと増やしてほしいという声が多い。
- ・教員からは、指導期間や回数、時間割の調整等カリキュラムへの課題があるとの指摘が多い。

③移動について

- ・児童からは、移動による負担を感じていないとの声が多い。
- ・教員からは、移動中における安全面の課題があるとの声が多い。
- ・移動時の熱中症対策として、猛暑日の水泳授業を見送ったケースが見られた。

④水泳指導の民間事業者への委託について（玉川小学校のみ実施）

- ・児童・保護者・教員ともに委託による指導について満足度が高い。
- ・教員からは、指導内容など民間事業者との打合せに課題があるとの声がある。

・インストラクターは、学習指導要領の内容を十分に理解し指導する必要がある。

⑤経費について

・区施設の共同利用においては、水泳指導を委託した場合（委託料：約500万円／年）、自校にプール施設を整備する場合の経費（約740万円／年）と比較して負担が少ない。また、民間施設の利用においても、施設使用料が約400万円／年のため、同様である。

・民間施設を利用し、水泳指導の委託を加えた場合の経費（合計約900万円／年）は、自校にプール施設を整備する場合の経費よりも負担が2割程度多くなる。

【総評】

- ・既存屋内温水プールの積極的な活用を前提に検討を進める。
- ・水泳指導において自校以外のプールを利用した場合、自校実施の場合と比べて半分以下の総実施時間となるため、学習指導要領に示された内容の実施や目標や達成が難しくなる。また、自校以外のプールを利用する際には移動時間が生じ、効率的な水泳授業が求められることから、自校以外のプールを利用する際には水泳指導の委託化を基本とする。
- ・民間事業者による水泳指導は、教員の負担軽減や児童の泳力向上に効果が期待できることが確認できた。
- ・移動に関しては、児童・保護者からは10分から15分程度の移動時間に関して、概ね受け入れられるとの回答が多かったが、一方で教員からは移動中の安全面に関する課題が指摘された。今回のモデル事業の結果を踏まえ、プールの共同利用にあたっては、移動中の安全対策の強化策や、1km程度を児童の可能徒歩圏域と想定し、検討を進める。なお、移動時のバス利用はバス待機場所への移動や乗車に時間を要することから、原則、徒歩による移動とした検討を行う。

5 学校プール施設整備の考え方

（1）プール施設のあり方の検討において留意すべき視点とケース別の検討

プール施設のあり方をとりまとめるにあたっては、以下の視点を踏まえて検討を進めた。

- ①天候等の影響を抑えた教育環境づくり
- ②児童の安全安心の確保
 - ・自校以外のプールを利用した場合の移動距離、時間、経路、時期
- ③教員の負担軽減
 - ・プール施設の管理運営、移動時における児童の見守り等
- ④建築制限により、新たなプール施設整備が困難となる学校への対応
 - ・容積率、高さ等の制限を踏まえた建築計画の検証
- ⑤新たな屋内温水プール施設整備の検討
 - ・費用対効果やプール稼働率向上を考慮した屋内温水施設の検討

⑥屋外プール施設への暑熱対策となる設備の導入検討

- ・可動式屋根や簡易的な屋根等の仕様比較（コスト、課題など）
- ・水温調整の可否

⑦建設・維持管理経費の縮減効果

- ・屋内温水プール施設を複数校が共同利用する場合と各学校において暑熱対策となる設備を設けた屋外プール施設を整備する場合の経費比較

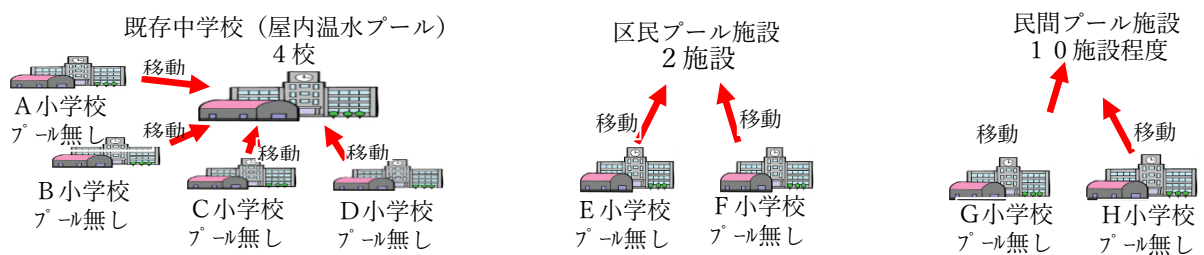
⑧民間プール施設の効果的な活用方法

想定される3つのケースにおける主な効果と課題の検討

【ケース①】改築校には新たな屋外プール施設を整備せず、既存区施設の屋内温水プールの共同利用及び民間プール施設を活用する。

- ⇒**効果**・プール建設費削減、プールを利用しないことにより維持管理経費の削減
- ・施設管理の負担軽減
- 課題**・移動が困難（距離、時間、時期）
- ・区民プール施設は区民の利用が制限される。
 - ・民間施設は継続性が懸念される。

◆ケース①のイメージ

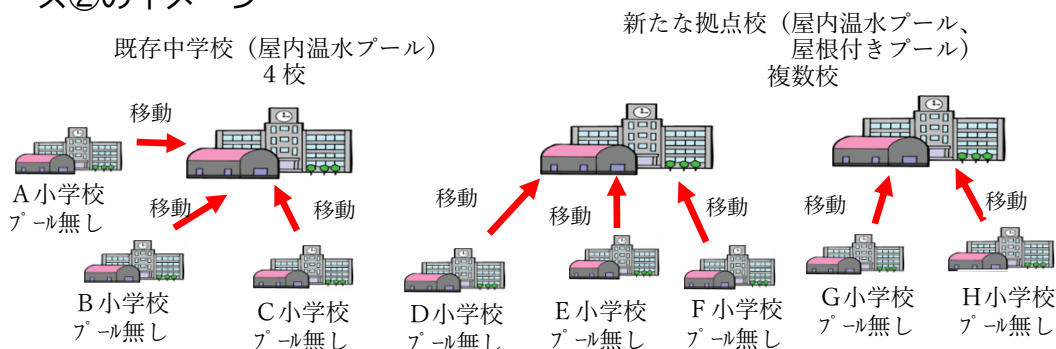


【ケース②】改築校には新たな屋外プール施設を整備せず、拠点となる複数の学校に新たな屋内温水プール施設を整備して共同利用する。

また、移行期間には、民間プール施設の活用も検討する。

- ⇒**効果**・プール建設の削減、小学校プールを利用しないことにより維持管理経費の削減
- ・施設管理の負担軽減
- 課題**・拠点となる学校のプール建設、温水プール利用による光熱水費等維持管理経費の増加

◆ケース②のイメージ

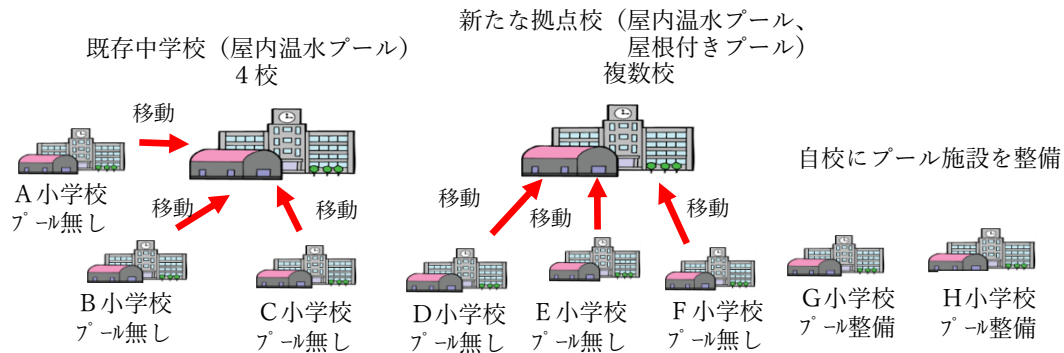


【ケース③】拠点となる複数の学校に新たな屋内温水プール施設を整備して共同利用するとともに、共同利用に適さない改築校に暑熱対策を施した設備を設置した屋外プール施設を整備する。

⇒**効果**・プール施設を整備する学校は移動に伴う負担なし

課題・拠点となる学校の建設、暑熱対策費等維持管理経費の増加

◆ケース③のイメージ



（２）学校プール施設整備の検討

◆プール施設に係る概算経費の算出（耐用年数 65 年としたライフサイクルコスト）

施設	屋外プール （可動床有）	中学校屋内温水プール （可動床有、地下階）
利用形態	水泳授業のみ （6月中旬～9月上旬）	水泳授業、 部活動、区民利用（通年）
①建設経費 （新設・解体費）	約 2 億 5,000 万円	約 16 億 7,500 万円
②維持管理経費 （改修費, 塗装費）	約 7,700 万円	約 3 億 8,600 万円
③運営経費 （点検、清掃、水道 代等）	約 285 万円／年 （約 1 億 8,600 万円）	約 6,100 万円／年 （約 39 億 6,300 万円）
概算経費計	約 790 万円／年 （約 5 億 1,300 万円）	約 9,270 万円／年 （約 60 億 2,400 万円）

*建設経費および維持管理経費は、令和 5 年度時点の単価設定による算出

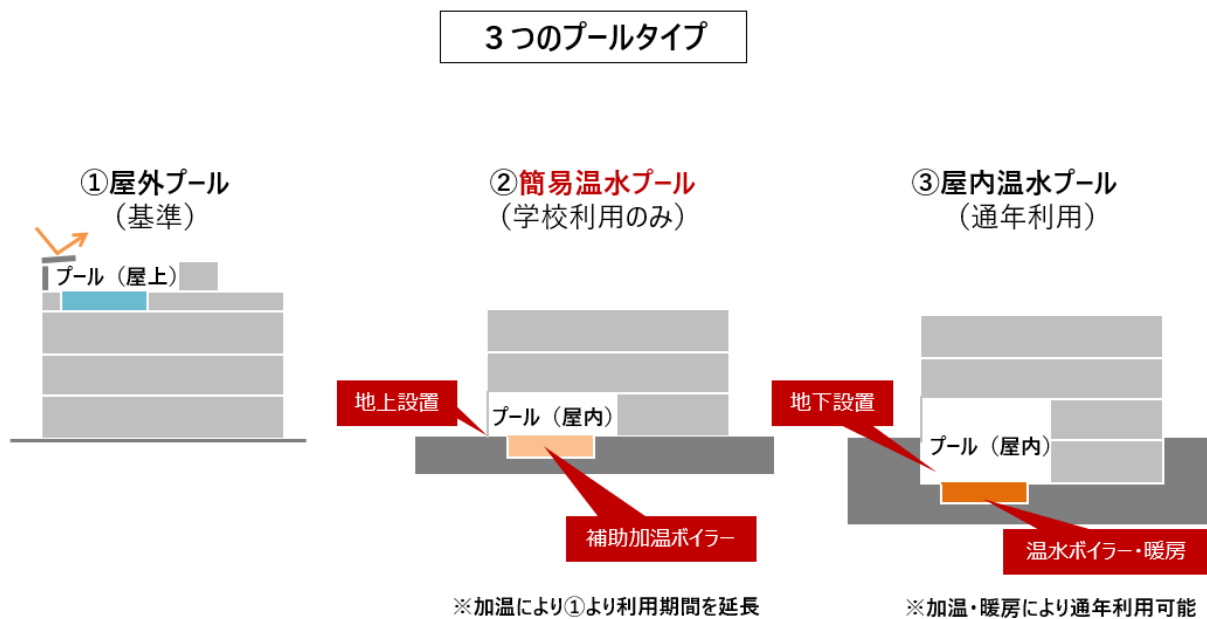
*屋内温水プール施設の新設経費は、他自治体の事例を参考に算出

中学校に整備している屋内温水プール施設は、限られた敷地を有効活用するために地下階に配置され、経費は割高になっている。屋外プール施設の年あたりの概算経費は、屋内温水プール施設と比較すると 1 / 12 程度と大きな開きがある。

「屋外プール」と「屋内温水プール」のコスト差が大きいため、費用対効果を考えると複数校に屋内温水プールを設置することは財政的に困難である。そこで、簡易な方法で複数校利用できるプールの実現を目指し検討を行った。

新たな案として、プールを室内に配置し、プール水を補助的に加温するなど、夏季およびその前後の比較的温暖な時期に利用期間が拡大できるよう「簡易温水プール」を加えて検討を実施した。

◆プールの比較（イメージ）



簡易温水プールは建物の1階に配置する屋内プールとし、夏季の直射日光を避けることで猛暑対策や熱中症対策につなげる。また、利用期間を延長させるために補助加温ボイラーを設置し、水を加温することで夏季前後の期間（外気平均気温20℃程度の期間）もプール授業が行える施設とする。

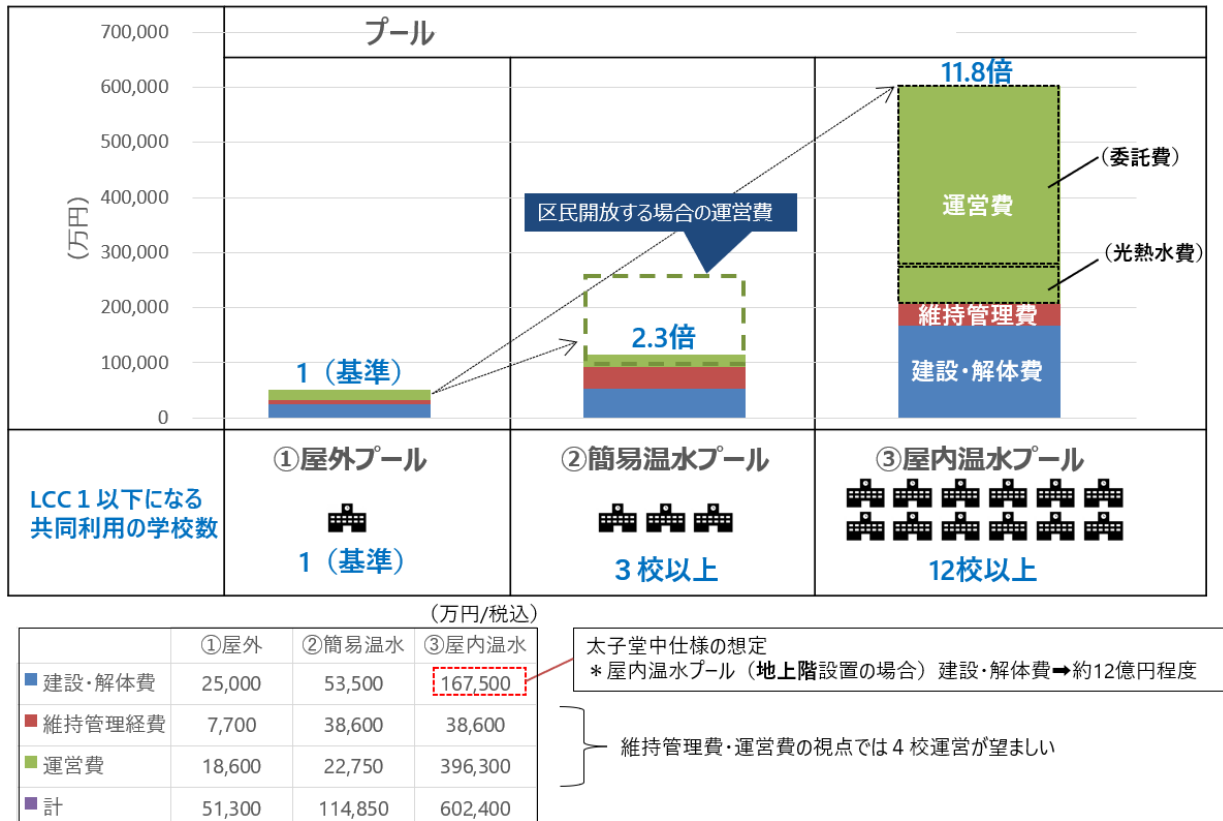
①コストの検証

簡易温水プールは屋外プールに比べ、屋内にすることで建設経費・維持管理費の増加、補助加温ボイラーで水を加温することにより光熱費が増加し運営経費が増加する。そこで、ライフサイクルコストを算出し、既存の屋外プール、屋内温水プールとコストの比較を行った。

◆簡易温水プールの概算経費算出

施設	簡易温水プール (可動床有)	備考 (算出根拠)
利用形態	水泳授業のみ (6月初旬～10月下旬)	
①建設経費 (新設・解体費)	約5億3,500万円	建設費:他自治体の屋内温水プールの実績単価×想定面積 解体費:事例単価×想定面積
②維持管理経費 (改修費, 塗装費)	約3億8,600万円	中学校屋内温水プールと同じ
③運営経費 (点検、清掃、水道代等)	約350万円/年 (約2億2,750万円)	屋外プール経費+ボイラー保守費+ガス使用量
概算費計	約1,770万円/年 (約11億4,850万円)	

◆ライフサイクルコスト（65年）によるコスト比較



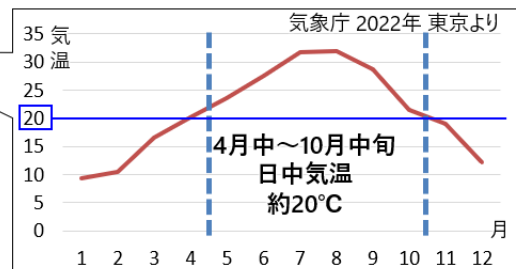
屋外プールを1（基準）としたコスト比較では、簡易温水プールは2.3となり、3校以上の共同利用ができれば費用対効果を見込めることが確認できた。また、屋外プールを個別で3校利用した場合と比較すると、1年あたりの経費削減効果は3校で約600万円の見込みとなる。

②カリキュラムの検討

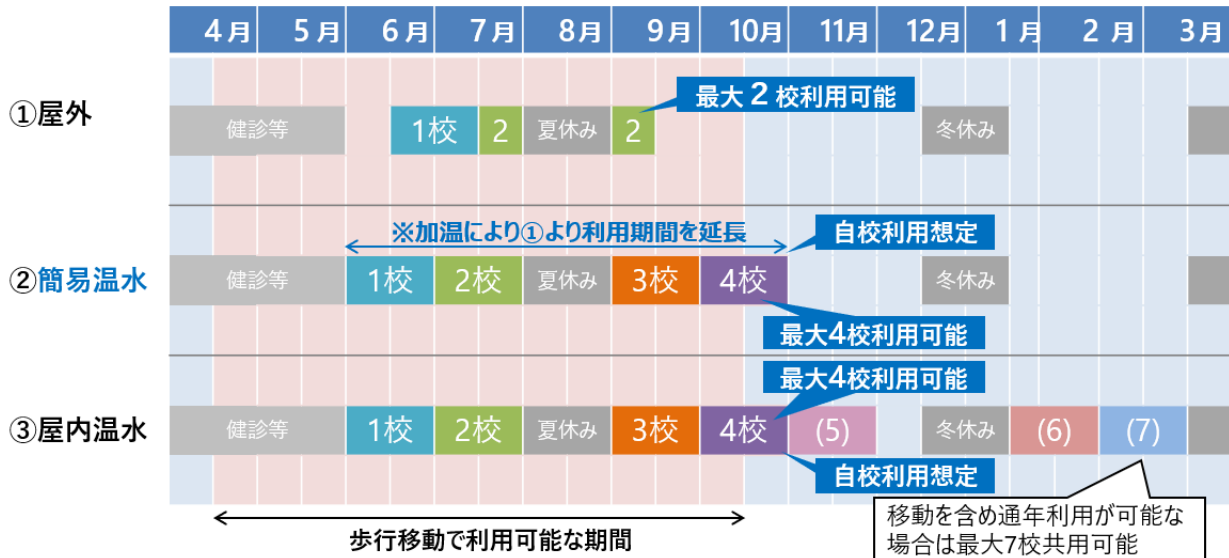
次に、現在モデル事業で実施している玉川小・玉川中の授業数をもとに、カリキュラムから見た共同利用可能数の検証を行った。

◆プール別の共同利用対応期間の想定

- ・歩行可能な条件を気温20℃以上とした場合
期間は4月中～10月中
(10月後半は20℃を下回るため自校利用想定)
- ・プール授業回数 5回想定
- ・1回授業当たり1学年2コマ利用想定



プールのタイプと対応利用期間



「簡易温水プール」の共同利用可能数を算出すると、日中気温が約20℃以上になる4月中旬から10月中旬までの約6カ月間を歩行可能期間として想定する。健康診断や運動会、運動測定等春の行事が概ね終了する6月からプール授業開始を基準にすると、3～4校が共同利用できる結果になる。なお、運動会が秋開催の学校があればプール授業の開始時期を早められる可能性も考えられるため、利用期間や順番は共同利用の学校間での調整が必要になる。

※なお、想定では上記の結果となったが、学校行事の都合や学級数、天候によっては、共同利用可能数は想定を大きく下回る可能性も考えられる。

(3) 共同化拠点プールの条件および共同利用候補校の抽出

今後予定されている学校改築時におけるプール整備について、簡易温水プールを拠点とした共同利用も選択肢に加え、プール拠点校の条件を整理する。

- ①継続利用可能な屋上プール（可動床）を設置している小学校は除外する
- ②既存の区民開放利用中の屋内温水プールの中学校は、学校共用拠点プールにしない
- ③バスの利用は考慮せず、徒歩1km圏内（最大15分以内）とする。その際、長い坂道や幹線道路横断などの要因も考慮する。
- ④拠点校は敷地の広さや部活動利用の観点から中学校を基本とする

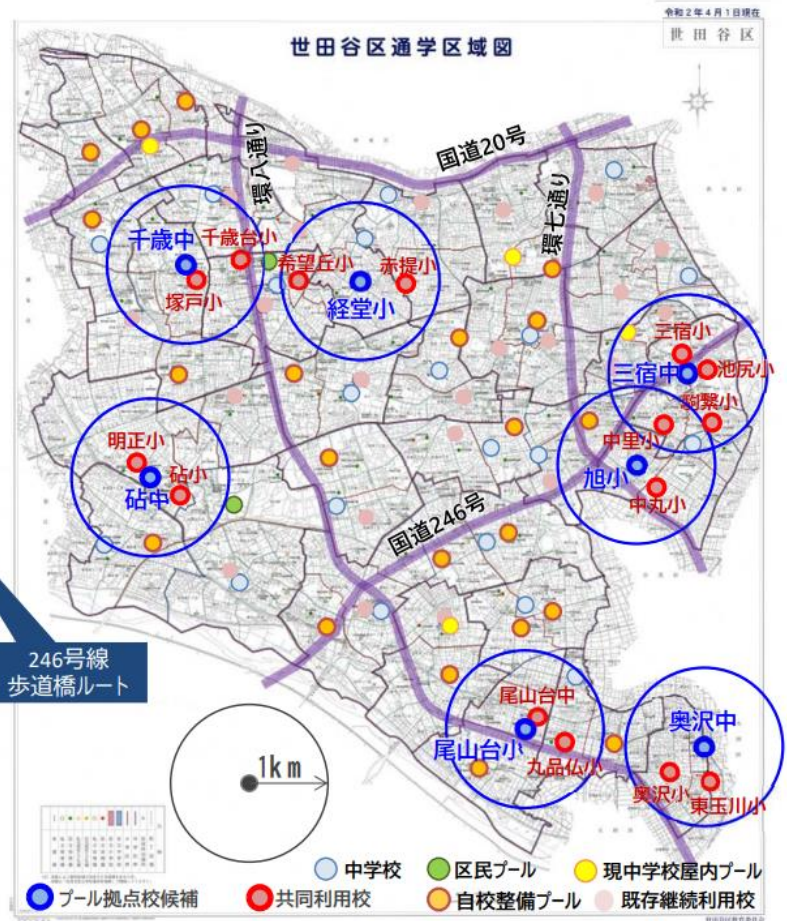
①～④の条件でかつ、3～4校共同利用できる候補校の抽出を実施したが、改築年次で拠点校（中学校）の改築年次より小学校改築年次が早い傾向があるため、期待す

る効果につながらない。そこで、抽出したグループ内で改築年次が早い小学校を拠点校候補に変更し、改めて①～③の条件でかつ、3～4校共同利用できる候補校の抽出を実施した。

◆共同利用候補校の抽出

プール拠点校までの歩行距離一覧表（机上検討）

拠点校	共同利用校	歩行距離
1 砧中	明正小	270m
	砧小	400m
2 尾山台小	九品仏小	400m
	尾山台中	80m
3 奥沢中	奥沢小	650m
	東玉川小	450m
4 千歳中	塚戸小	240m
	千歳台小	650m
5 経堂小	赤堤小	650m
	希望丘小	850m
6 旭小	中里小	700m
	中丸小	450m
7 三宿中	三宿小	350m (1,000m)
	池尻小	170m
	駒繫小	750m



※上記学校数は小学校のみを示す

(4) プール共同利用における効果と課題

プール共同利用で考えられる効果と課題は以下のとおりである。

⇒**効果**・65年のライフサイクルコストでは経費削減が見込まれる

- ・インストラクターに一部水泳授業を委託しても、経費相殺効果が見込まれる
- ・プール授業の一部委託やプール管理（水質管理）が無くなることによる教員の負担軽減
- ・プールが無くなる学校は空いた敷地をグラウンド等有効活用できる
- ・学校利用を前提としているが、空いている時間帯は地域利用ができる可能性もある

- 課題**・共同利用を想定しているグループ内では、想定している拠点校（中学校）の改築年次より、小学校改築年次が早い傾向がある
- ・子供の安全管理（拠点校までの移動経路（距離、高低差、大通り）、真夏の

移動時の熱中症対策)

- ・拠点校以外の学校（教員）や保護者への説明
- ・複数校での教員によるプール授業の調整（教員の負担増）
- ・自校にプールが無くなる小学校の夏休み水泳教室の実施
- ・プール授業の質と量の低下の懸念

プールの共同利用により期待される効果が大きい一方、実施に向けた課題も多い。そこで比較的改築年次が早いグループで具体的な検証を行う。

【検証】 奥沢中を拠点とした奥沢小と東玉川小で簡易温水プールを共同利用するグループ

対象校：奥沢中学校（生徒数：151人 令和5年度5月1日時点）

奥沢小学校（児童数：438人 令和5年度5月1日時点）

東玉川小学校（児童数：382人 令和5年度5月1日時点）

移動手段：奥沢小学校 徒歩13分程度（大人では80m/分のところ50m/分で計測）

東玉川小学校 徒歩 9分程度（同上）

◆奥沢中を拠点とした想定移動ルート



実施時期：6月～10月

利用方法：小学校と中学校の水泳授業のカリキュラムを調整して利用

水泳授業：小学校は学年別、中学校は学年別・男女別で想定、5回（*2コマを

1回)

※設定条件（玉川小・玉川中のモデル事業の授業を参考に作成）

- ・ 7月は梅雨及び酷暑を想定し、拠点校として移動がない奥沢中で設定
- ・ 中学校は自校のため予備日なし
- ・ 小学校は週1日の予備日を設定
- ・ 小・中学校共午後は予備的に授業を入れていないため調整の余地を残している
- ・ 中学校は期末試験を3日間想定している

◆共同利用による授業の割振り（想定）

6月								7月							
時間	日	月	火	水	木	金	土	時間	日	月	火	水	木	金	土
1-2					1	小1①	2	小3①	3						1
3-4						小2①		小4①							
5-6															
1-2	4	5	小5①	6	小1②	7	予備	8	小3②	9	小5②	10			
3-4			小6①		小2②				小4②		小6②				土曜日授業
5-6															
1-2	11	12	小1③	13	小3③	14	予備	15	小5④	16	小1④	17			
3-4			小2③		小4③				小6④		小2④				
5-6															
1-2	18	20	小3④	20	小5④	21	予備	22	小1⑤	23	小3⑤	24			
3-4			小4④		小6④				小2⑤		小4⑤				
5-6															
1-2	25	27	小5⑤	27	予備	28	中1男①	29	中2男①	30	中3男①				
3-4			小6⑤				中1女①		中2女①		中3女①				
5-6															
1-2															
3-4															
5-6															
1-2	2	3	中1男②	4	中2男②	5		6		7		8			
3-4			中1女②		中2女②		(仮)試験	(仮)試験	(仮)試験						土曜日授業
5-6															
1-2	9	10	中3男②	11	中1男③	12	中2男③	13	中3男③	14	中1男④	15			
3-4			中3女②		中1女③		中2女③		中3女③		中1女④				
5-6															
1-2	16	17		18	中2男④	19	中2男④	20		21		22			
3-4					中2女④		中2女④								
5-6															
1-2	23	24		25		26		27		28		29			
3-4															
5-6															
1-2	30	31													
3-4															
5-6															
1-2						1		2							
3-4															
5-6															
1-2	3	4	中1男⑤	5	中2男⑤	6	中3男⑤	7	小1①	8	小3①	9			
3-4			中1女⑤		中2女⑤		中3女⑤		小2①		小4①				土曜日授業
5-6															
1-2	10	11	小5①	12	小1②	13	予備	14	小3②	15	小5②	16			
3-4			小6①		小2②				小4②		小6②				
5-6															
1-2	17	18		19	小1③	20	予備	21	小3③	22	小5③	23			
3-4					小2③				小4③		小6③				
5-6															
1-2	24	25	小1④	26	小3④	27	予備	28	小5④	29	小1⑤	30			
3-4			小2④		小4④				小6④		小2⑤				
5-6															
1-2															
3-4															
5-6															
1-2	1	2	小3⑤	3	小5⑤	4	予備	5		6		7			
3-4			小4⑤		小6⑤										
5-6															
1-2	8	9		10		11	小3	12		13		14			
3-4															土曜日授業
5-6															
1-2	15	16		17		18		19		20		21			
3-4															
5-6															
1-2	22	23		24		25		26		27		28			
3-4															
5-6															
1-2	29	30		31											
3-4															
5-6															

⇒**効果**・3校活用で約600万円/年の経費削減を見込める（5（2）のライフサイクルコストの検証より）

- ・ 奥沢小、東玉川小は自校のプールを利用しないため、プール管理（水質管理）の負担が無くなる
参考：玉川小のモデルケースではインストラクターの委託内容に水質管理等の委託も行っており、奥沢中もインストラクターへの委託を実施する場合はプール管理の負担軽減につながる
- ・ 運用がうまくいけば、奥沢小・東玉川小のプールを解体し空き地の有効活用ができる

課題・児童の移動経路の安全管理

参考：玉川小は授業の空き教員・講師等による引率手伝いやインストラクターの委託内容に一部区間の引率支援を実施している。他自治体ではシルバー人材センターから人員を派遣し安全誘導を行っているケースもある。対策については個別の検討が必要になる

- ・授業の調整→上記でプール運営期間の簡易検証は行っているが、各学校の行事等による都合もあるため、学校間の調整や学校内での調整が必要になる。
- ・小学校は自校でプール利用を行わないため、小学校の夏休み水泳教室の実施についての検討・判断が必要になる

(5) プール共同利用以外の学校のプール運営

既存プール活用校やプールの共同利用に該当しない改築校は以下の方針でプール運営、整備を進める。

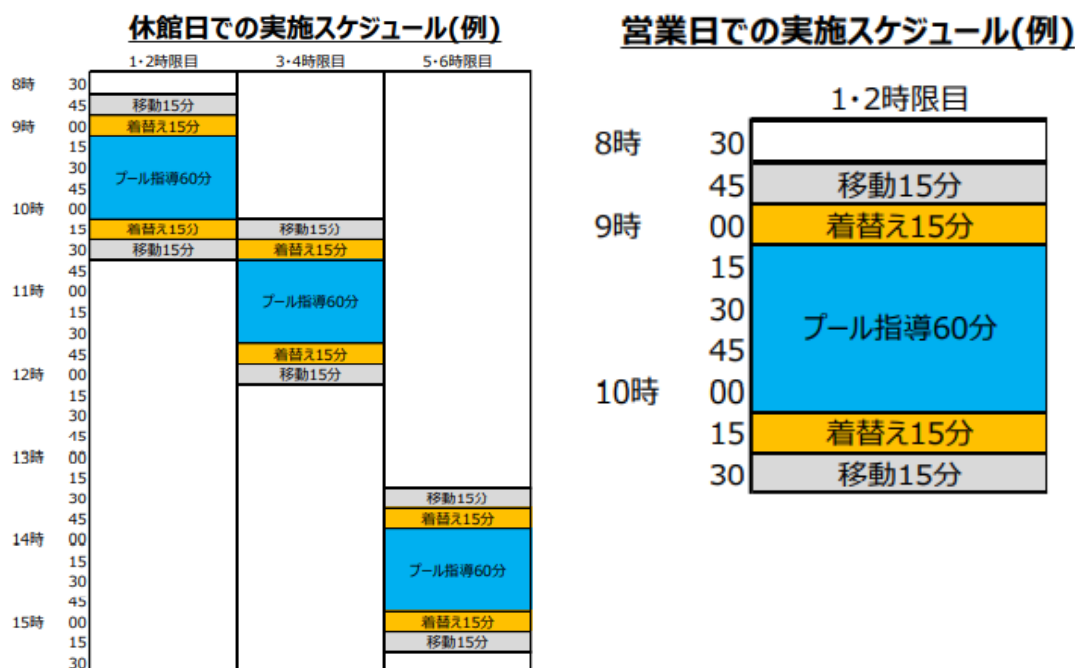
① 民間施設活用について

中間報告では、「確実な恒久的な利用が見通せないことから、改築工事期間中など主に一時的な活用を基本に検討を進める。」との考え方を示してきた。しかし、学校改築を進めるにあたりプールの共同利用校に該当せず、敷地が狭小でプール設置が難しい学校や、当面改築計画はないが、民間プールを活用し、プールを先行解体することでプール敷地を有効活用することが効果的な学校もある。

民間施設の活用では下図に示す通り、週1回の休館日の活用が基本になるが、毎日の営業日（営業時間前の活用）でも活用できるケースもある。

今後は、中間報告の方針を継続しながら一部学校では民間施設活用も選択肢に入れて改築計画を進める。なお、民間施設が撤退した場合は、バスを利用し中学校温水プールや区立温水プール活用に切り替えることを想定する。

◆民間施設休館日活用及び民間施設開館前活用による実施スケジュール（案）



出典：ルネサンス学校水泳授業民間活用オンライン説明会資料

②区営プールの活用（大蔵、千歳）

現在学校プールとして利用は行っていないが、今後は指定管理者との契約内容見直しの機会をとらえ検討を行う。利用調整ができれば拠点対象とし、近隣小学校との共同利用の調整を進める。

③遮熱対策

共同利用校に該当せず、今後改築対象校で自校にプール設置する学校や既存継続利用の学校には遮熱対策を実施しながらの利用を進める。遮熱対策はモデル事業を実施し、効果が検証できれば本格実施に向け対応を進める。

◆遮熱対策イメージ（箕輪市実施状況）



④暑熱対策

暑熱対策として、上部からのミストによる散水やプールサイドに灌水装置の設置（はだしで歩く際のやけど対策）、ワンタッチで開く簡易テントの設置など、効果が期待される暑熱対策を進める。

◆遮熱対策イメージ（ミストシャワー）



出典：フリー素材.COM

対応例

- 1) 改築予定校（共同利用に該当せず自校プール整備）
 - ③のモデル事業で効果が実証されれば、新しい校舎で③の対応を行うとともに、④のミストや灌水装置による対策を進める。
- 2) 既存校（当面改築予定がなく屋上にプールが設置されている学校）
 - 1)と同様の考えで対応を進める。
- 3) 既存校（近々改築予定の学校）
 - ワンタッチ型の簡易テントを設置するなど効果が期待される暑熱対策を進める。

6 授業以外でのプール運営についての対応

(1) 夏季水泳指導

夏季休業中の水泳教室（夏季水泳）は、各小・中学校の任意実施であり、内容や実施期間も各学校によって異なっている。そのため、年間指導計画等の学校カリキュラムの中には設定されておらず、参加も任意になっている。

しかし、実施する場合は基本的に水泳授業と同様の対応が必要であり、各学校の任意実施でありながら学校負担は大きい。

今後、プールの共同利用に伴い小学校にプールがない学校も出てくることや、教員の働き方改革を推進する観点からも、夏季水泳指導のあり方について見直す必要がある。

併せて、小学校による水泳教室から児童のみが利用する開放プールに切り替えていくことも視野に入れながら対応の検討を進める。

(2) 学校開放

区は温水プールがある区立中学校（太子堂、玉川、烏山、梅丘）を通年、一部の中学校では夏季休業中（令和5年度は弦巻、松沢、駒沢、北沢、八幡、緑丘、駒留、喜多見）にプール開放を行っている。学校プールは、校庭や体育館と同様に地域での活用が期待される施設でもあるため、今後、簡易温水プールが整備されれば開放施設とするか検討が必要になる。

(3) 災害時の生活用水等の確保

学校プールは災害時に生活用水や消火用水としての役割が期待される。学校プールを整備しない場合は、新校舎の基礎ばり部分等を貯水槽として活用し、避難所運営や消防水利の指定等に支障がないよう危機管理部災害対策課、各支所地域振興課や地域（町会・自治会）、消防署との調整が必要になる。

巻末資料

- ・小中学校プール施設の整備状況一覧
- ・玉川小・玉川中の共同利用、瀬田小の民間利用に対する児童・教員・保護者アンケート結果（令和4年度実施）
- ・「小学校プール施設のあり方の検討」に関する小中学校へのアンケート結果（令和5年度実施）
- ・区内屋内温水プール施設配置図

小学校プール施設の整備状況一覧

無印：校庭平置き *：屋上 ☆：埋込式蓋掛 △：体育館下

学校名	竣工年度	規模 (m)	屋 上	床 可 動	学校名	竣工年度	規模 (m)	屋 上	床 可 動
若林	*令 元	25×10	○	○	駒繫	昭43	25×10		
三宿	*昭54	25×10	○		池之上	令和6年度竣工予定			
太子堂	*平 2	25×10	○		経堂	昭44	25×10		
桜	*平22	25×10	○	○	弦巻	昭43	25×10		
桜丘	*平10	25×10	○	○	山崎	昭42	25×10		
代沢	*令 元	25×10	○	○	中丸	△昭41	25×10		
多聞	*平27	25×12	○	○	代田	昭60	25×10		
世田谷	昭44	25×10			三軒茶屋	昭35	25×10		
松沢	*平20	25×10	○	○	赤堤	*昭63	25×10	○	
駒沢	*平17	25×10	○	○	松丘	*昭62	25×10	○	
旭	昭46	25×10			池尻	*平 4	25×10	○	
中里	☆平23	25×8		○	笹原	平 元	25×10		
松原	*令 3	25×10	○	○	城山	*平28	25×12	○	○
上北沢	*平23	25×10	○	○	深沢	昭44	25×10		
玉川	昭41	25×10			祖師谷	昭59	25×12		
京西	*平22	25×10	○	○	砧	昭39	25×10		
二子玉川	*昭60	25×10	○		明正	*平 2	25×10	○	
八幡	昭43	25×10			烏山北	*平 元	25×10	○	
奥沢	昭42	25×10			八幡山	*平 9	25×10	○	○
尾山台	昭36	25×10			芦花	*平23	25×13	○	○
東深沢	昭36	25×10			船橋	*平16	25×10	○	○
東玉川	昭41	25×10			砧南	*平 8	25×10	○	○
桜町	平 3	25×10			給田	*平19	25×10	○	
九品仏	昭58	25×9			山野	*平29	25×10	○	○
瀬田	令和6年度一部竣工 予定				千歳	*平24	25×13	○	○
等々力	昭35	25×10			喜多見	昭47	25×11		
用賀	昭36	25×10			武蔵丘	昭48	25×10		
中町	*平 6	25×10	○	○	希望丘	昭49	25×10		
玉堤	*平 3	25×10	○		千歳台	昭54	25×10		
烏山	☆昭63	25×10			下北沢	*平29	25×10	○	○
塚戸	*昭62	25×10	○						

中学校プール施設の整備状況一覧

無印：校庭平置き *：屋上 ☆：埋込式蓋掛 △：体育館下

学校名	竣工年度	規模 (m)	屋 上	床 可 動	学校名	竣工年度	規模 (m)	屋 上	床 可 動
太子堂	昭56	25×12.5		○	深沢	*昭57	25×12	○	
桜丘	昭34	25×12			尾山台	昭60	25×12		
松沢	*平4	25×12	○		用賀	*平2	25×12	○	
駒沢	*昭61	25×12	○		東深沢	*平13	25×12	○	
北沢	*昭58	25×12	○		砧	平2	25×12		
緑丘	*平元	25×12	○		烏山	○平15	25×13		○
駒留	*昭59	25×12	○		千歳	平2	25×12		
梅丘	○昭16	25×12		○	芦花	*昭62	25×12	○	
桜木	昭61	25×12			上祖師谷	昭51	25×12		
富士	昭41	25×10			砧南	昭51	25×12		
弦巻	*昭57	25×12	○		喜多見	昭54	25×12		
奥沢	昭53	25×14			三宿	*昭59	25×12	○	
八幡	*昭57	25×12	○		世田谷	*平25	25×12	○	
玉川	○平6	25×13		○	船橋希望	*平25	25×12	○	
瀬田	*昭59	25×10	○						

玉川小・玉川中の共同利用、瀬田小の民間利用に対する児童・教員・保護者アンケート結果（令和4年度実施）

玉川小学校

1～3年児童（回答 235人）

①【プールに いくみちとかえりみちの こと】

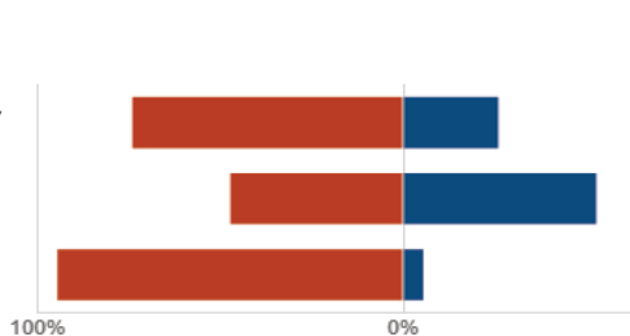
あてはまるものを えらんでください。

■ そうおもう ■ そうおもわない

(1) プールまで あるく じかんは、ちょうどよい ながさでしたか。

(2) プールへ あるいていくことは、たいへんでしたか。

(3) プールに いくまで あんぜんに あるけましたか。



②【じゅぎょうの こと】

あてはまるものを えらんでください。

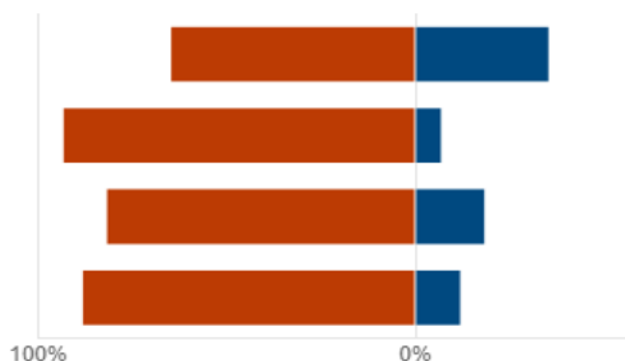
■ そうおもう ■ そうおもわない

(4) プールで うんどうする じかんは、じゅうぶんでしたか。

(5) インストラクターの せんせいの おしえかたは わかりやすかったですか。

(6) みずの なかでの うごきかたや およぎかたが じょうずに なったと おもいますか。

(7) こういつでの きがえは、もんだいなく できましたか。



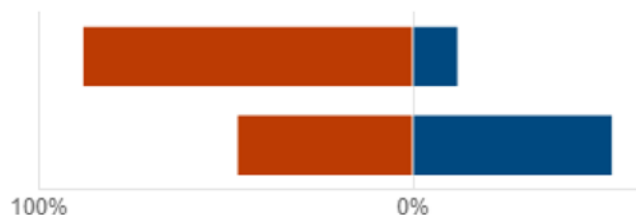
③【プールに はいる じかんわり】

あてはまるものを えらんでください。

■ そうおもう ■ そうおもわない

(8) プールに はいる じきは、ちょうど よかったですか。

(9) プールの じゅぎょうかいすうが おおすぎたり すくなすぎたり しませんでしたか。



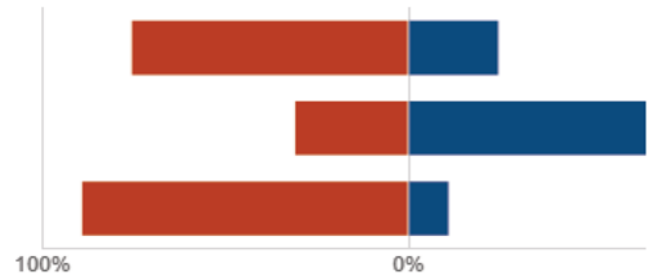
4～6年児童（回答 375人）

①【プールへの行き帰りこと】

当てはまるものを えらんでください。

■ そう思う ■ そう思わない

- (1) プールまで歩く時間は、ちょうどよい長さでしたか。
- (2) プールへ歩いていくことは大変でしたか。
- (3) プールに行くまで、安全に歩けましたか。

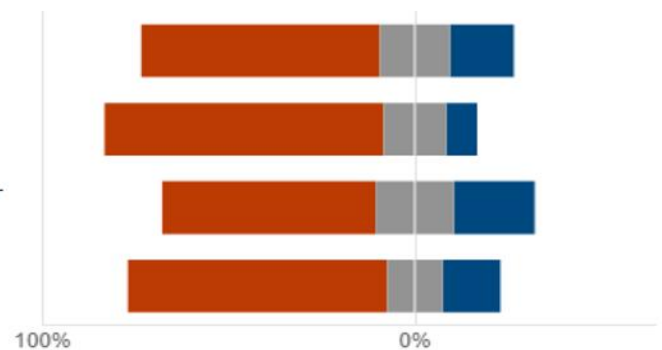


②【じゅぎょうの こと】

当てはまるものを えらんでください。

■ そう思う ■ 学校のプールでのじゅぎょうと変わらない ■ そう思わない

- (4) プールで運動する時間は、じゅうぶんでしたか。
- (5) インストラクターの先生の教え方は分かりやすかったですか。
- (6) 水の中での動き方や泳ぎ方が上手になったと思いますか。
- (7) こうい室での着がえは、問題なくできましたか。

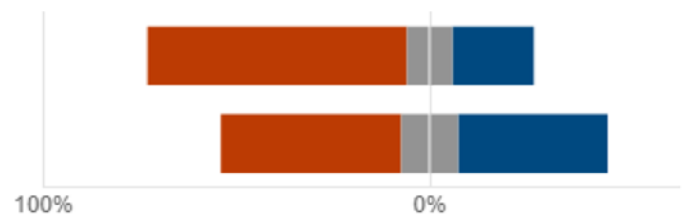


③【プールに入る時間わり】

当てはまるものを えらんでください。

■ そう思う ■ 学校のプールでのじゅぎょうと変わらない ■ そう思わない

- (8) プールに入る時期は、ちょうどよかったですか。
- (9) プールのじゅぎょう回数が多すぎたり少なすぎたりしませんでしたか。



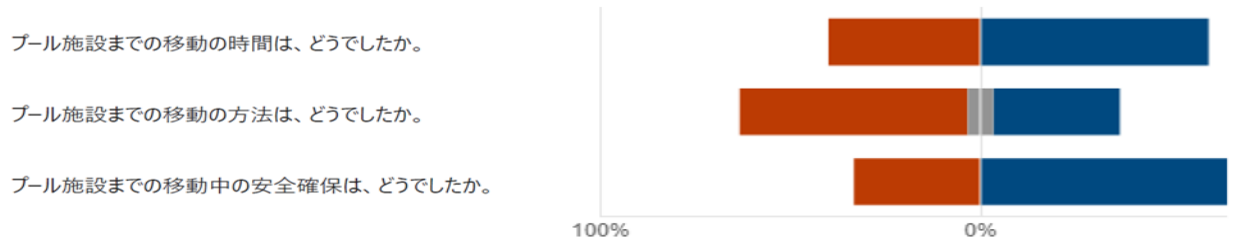
教員 (回答 15人)

①【プールへの移動】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

(自校プールでの指導経験のある方は、比較して回答してください。)

■ よい ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ 課題あり

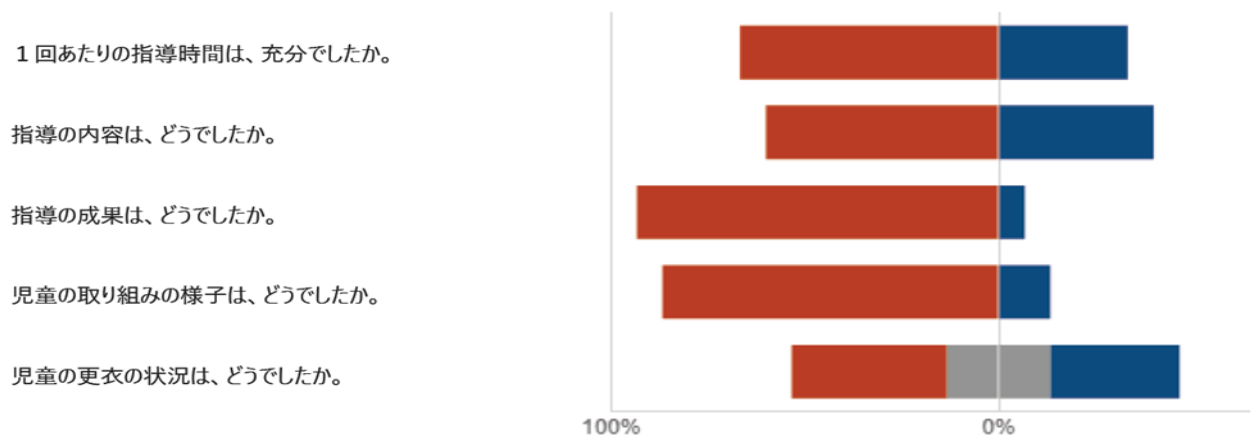


②【指導について】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

(自校プールでの指導経験のある方は、比較して回答してください。)

■ よい ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ 課題あり

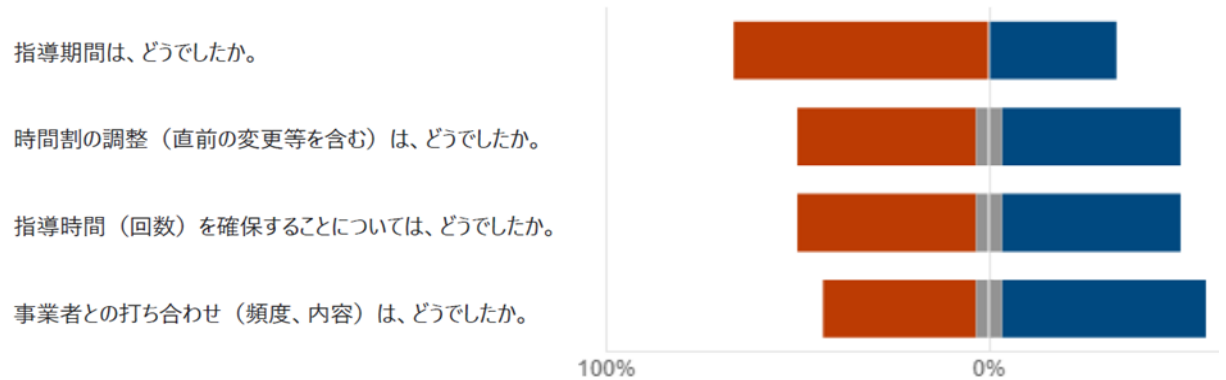


③【カリキュラムについて】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

(自校プールでの指導経験のある方は、校内調整・学年打合せ比較してください。)

■ よい ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ 課題あり

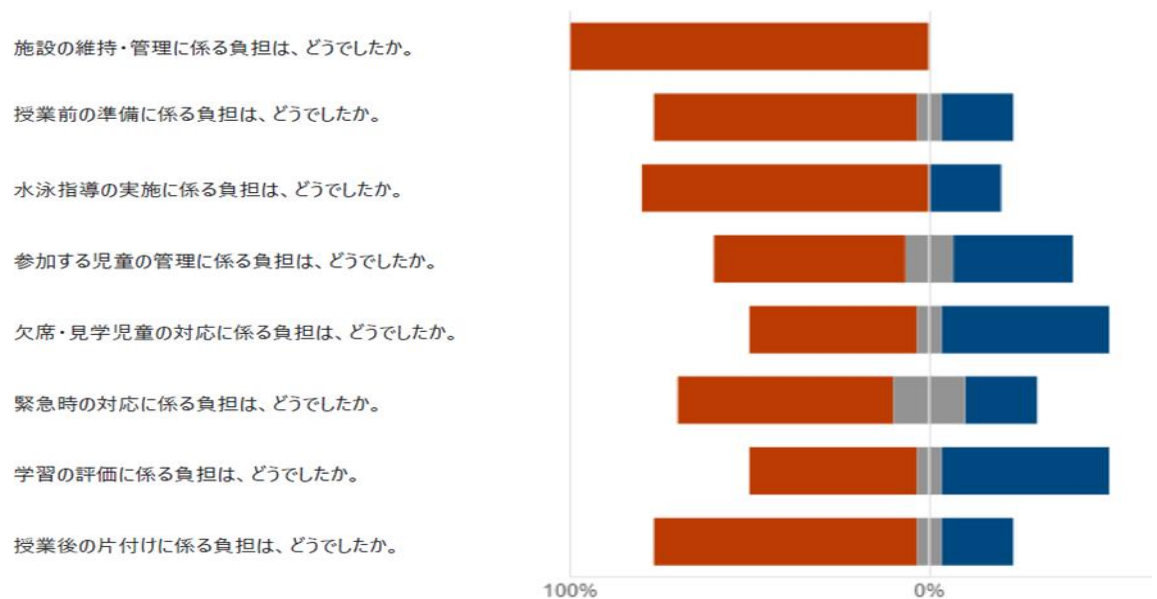


④【教員の負担軽減について】

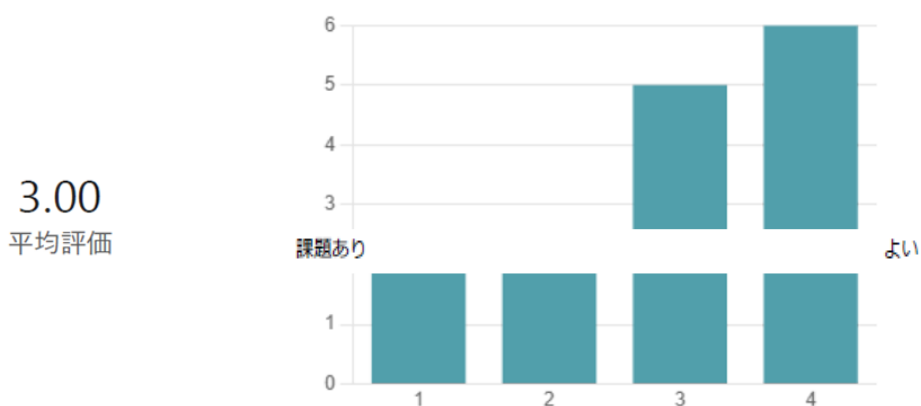
次の文について、当てはまるものを選んでください。

(自校プールでの指導経験のある方は、比較して回答してください。)

■ よい ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ 課題あり



⑤【その他】委託事業の継続性について、どのように考えますか。



⑥【その他】委託事業の継続性について、ご意見があれば入力してください。

- ・児童たちは泳力ごとのグループで活動し満足そうだった。しかし、学習指導要領の内容とはかけ離れた指導もあった。(学習指導要領より高度な技能を実践していた。)
- ・移動に時間がかかること、きちんと打ち合わせができていないこと、静かにしなければいけないことなど、なかなかお互いに負担が大きいのと感じた。学校側だけでなく、事業者側も指導がしづらかったと思う。
- ・移動時間に往復30分弱かかるので入水時間を確保する工夫ができるとよい。移動中の安全確保を充分に行うには担任以外の人員がいることが望ましい。指導要領とは異なる指導をするグループがあった。しかし、児童は自身の泳力にあった活動で充足感を味わっていた。教員は、安全管理に集中できることと、評価もしやすいということがメリットだった。
- ・今後も委託していきたい。
- ・指導内容は、レベル別にできるため子どもたちにとって良かった。しかし、指導員の指導の仕方について、児童への声かけの言葉がきつくなったり、接触が多かったりということが見られたため、指導員のサービスについては、確認をした上で指導を行う必要があると思います。

⑦【その他】夏季休業中の水泳教室について、ご意見があれば入力してください。

- ・実施するなら、現地集合、現地解散ができればいいと思う。しかし、玉川中までの普段、歩き慣れていない道のりの安全確保も心配。
- ・なくてよい(今後もなしの方向で行ってほしい。)
- ・保護者と本人がやりたいと思った家庭が、自分達で申し込んで参加する水泳教室ならよいと思う。学校管轄外という認識
→学校が間に入ることで、お互いに負担が大きくなるため。
- ・熱中症対策や、安全管理、人員確保の面で考えると、現地に集合、解散という形が望ましい。

保護者 (回答 340人)

①【プールへの移動】

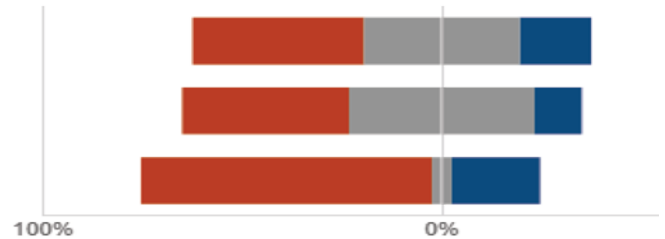
次の文について、当てはまるものを選んでください。

■ そう思う ■ そう思わない ■ 分からない

プールまで歩く時間は、ちょうどよい長さでしたか。

プールへ歩いて行くことは、大変でしたか。

プールに行くまで安全に歩けましたか。



②【授業について】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

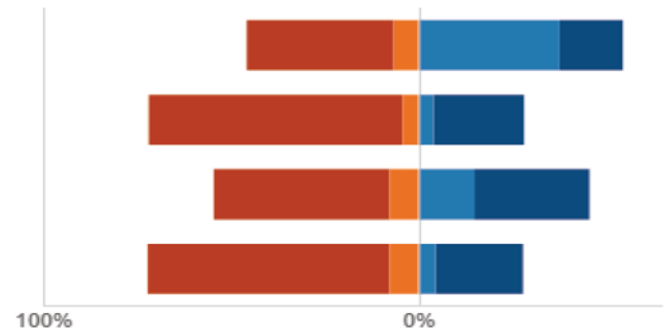
■ そう思う ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ そう思わない ■ 分からない

プールで学習する時間は、充分でしたか。

インストラクターの先生の教え方は分かりやすかったですか。

水の中での動き方や泳ぎ方が上手になったと思いますか。

更衣室での着替えは、問題なくできましたか。



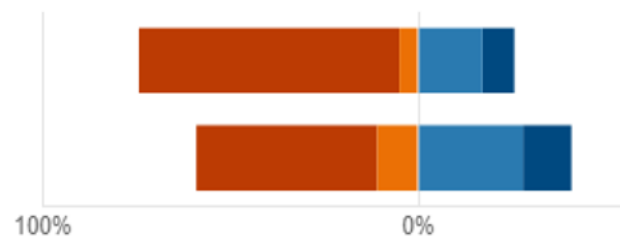
③【時期や時間について】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

■ そう思う ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ そう思わない ■ 分からない

水泳の学習をする時期は、ちょうどよかったですか。

水泳の授業回数が多すぎたり少なすぎたりしませんでしたか。



- ④【その他】委託事業の継続性について、ご意見があれば入力してください。
- ・炎天下の日差しや防犯面を含め、中学校の室内プールで行えることは大変安心感があった。
 - ・回数を増やしてほしい。
 - ・コーチがころころ変わるので、指導にばらつきが出る。
 - ・水泳に関して専門のインストラクターがついてくれることは安全面・指導面においても安心感がある。
 - ・1番暑い時間帯の炎天下の中歩いて移動しなければならないのは心配だった。時間のロスがもったいない。
- ⑤【その他】夏季休業中の水泳教室について、ご意見があれば入力してください。
- ・夏休みは家庭でプールに行くので、わざわざ学校でなくていいと思う。
 - ・ぜひ実施してほしい。

瀬田小学校

1～3年児童 (回答 284人)

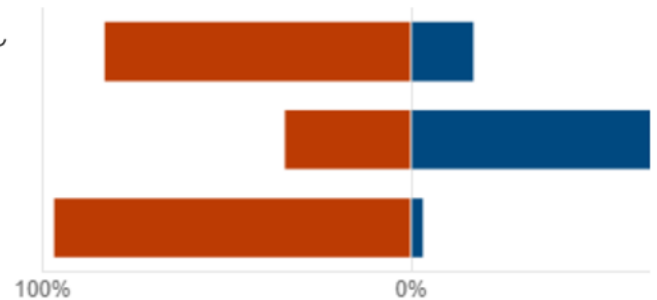
①【プールに いくみちとかえりみちの こと】
あてはまるものを えらんでください。

■ そうおもう ■ そうおもわない

(1) プールまで あるく じかんは、ちょうどよい ながさでしたか。

(2) プールへ あるいていくことは、たいへんでしたか。

(3) プールに いくまで あんぜんに あるけましたか。



②【じゅぎょうの こと】
あてはまるものを えらんでください。

■ そうおもう ■ そうおもわない

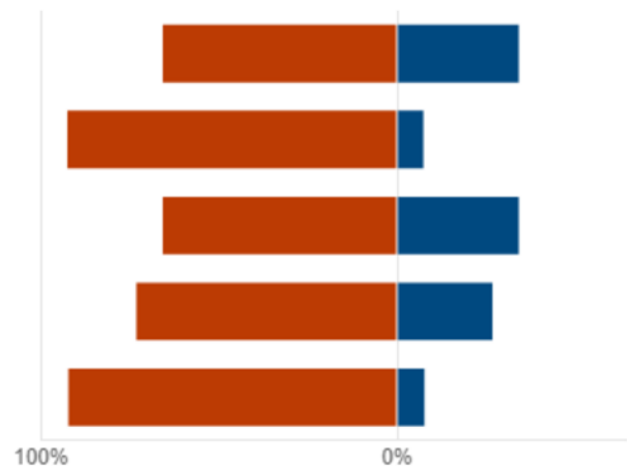
(4) プールで うんどうする じかんは、じゅうぶんでしたか。

(5) せんせいの おしえかたは わかりやすかったですか。

(6) みずの なかでの うごきかたや およぎかたが じょうずに なったと おもいますか。

(7) プールの みずの ふかさや あたかさは、ちょうどよかったですか。

(8) こういつでの きがえは、もんだいなく できましたか。

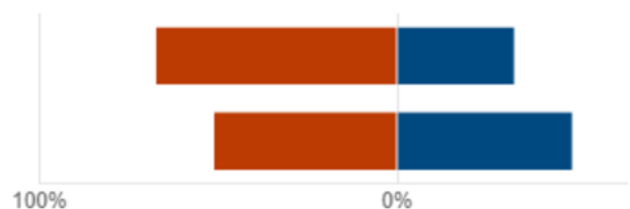


③【プールに はいる じかんわり】
あてはまるものを えらんでください。

■ そうおもう ■ そうおもわない

(9) プールに はいる じきは、ちょうど よかったですか。

(10) プールの じゅぎょうかいすうが おおすぎたり すくなすぎたり しませんでしたか。



4～6年児童（回答 198人）

①【プールへの行き帰りこと】

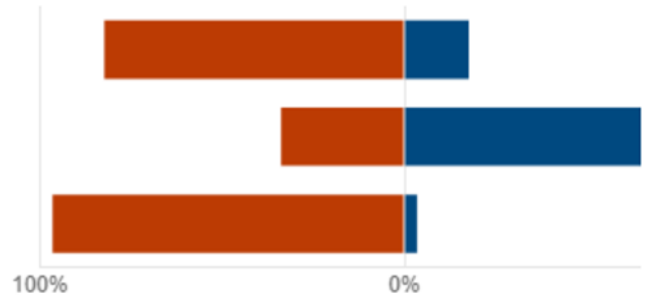
当てはまるものを えらんでください。

■ そう思う ■ そう思わない

(1) プールまで歩く時間は、ちょうどよい長さでしたか。

(2) プールへ歩いていくことは大変でしたか。

(3) プールに行くまで、安全に歩きましたか。



②【じゅぎょうの こと】

当てはまるものを えらんでください。

■ そう思う ■ 学校のプールでのじゅぎょうと変わらない ■ そう思わない

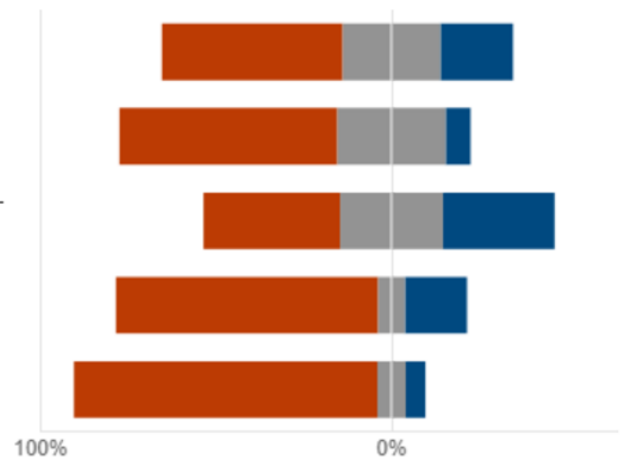
(4) プールで運動する時間は、じゅうぶんでしたか。

(5) 先生の教え方は分かりやすかったですか。

(6) 水の中での動き方や泳ぎ方が上手になったと思いますか。

(7) プールの水の深さやあたたかさは、ちょうどよかったですか。

(8) こうい室での着がえは、問題なくできましたか。



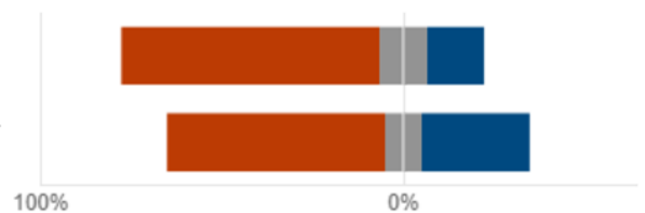
③【プールに入る時間わり】

当てはまるものを えらんでください。

■ そう思う ■ 学校のプールでのじゅぎょうと変わらない ■ そう思わない

(9) プールに入る時期は、ちょうどよかったですか。

(10) プールのじゅぎょう回数が多すぎたり少なすぎたりしませんでしたか。



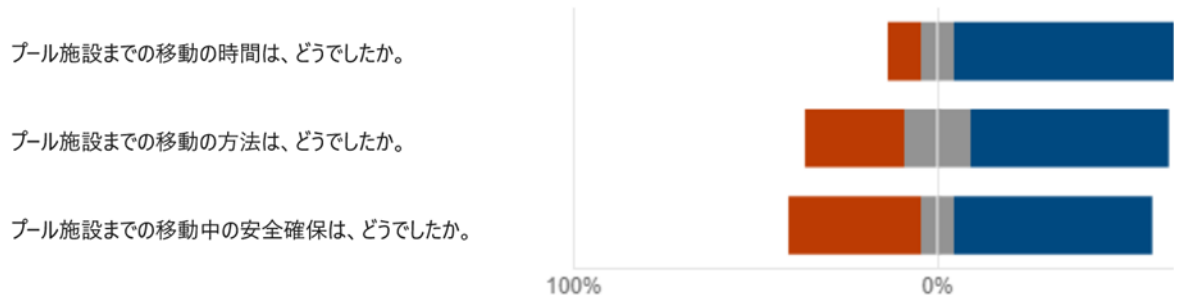
教員 (回答 11人)

①【プールへの移動】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

(自校プールでの指導経験のある方は、比較して回答してください。)

■ よい ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ 課題あり

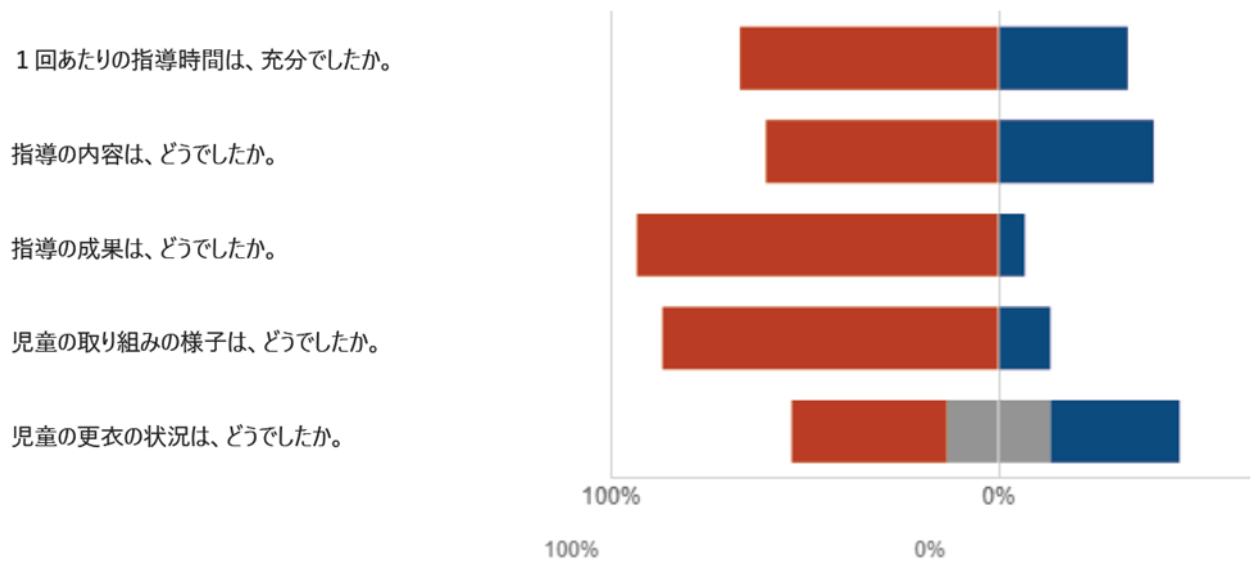


②【指導について】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

(自校プールでの指導経験のある方は、比較して回答してください。)

■ よい ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ 課題あり

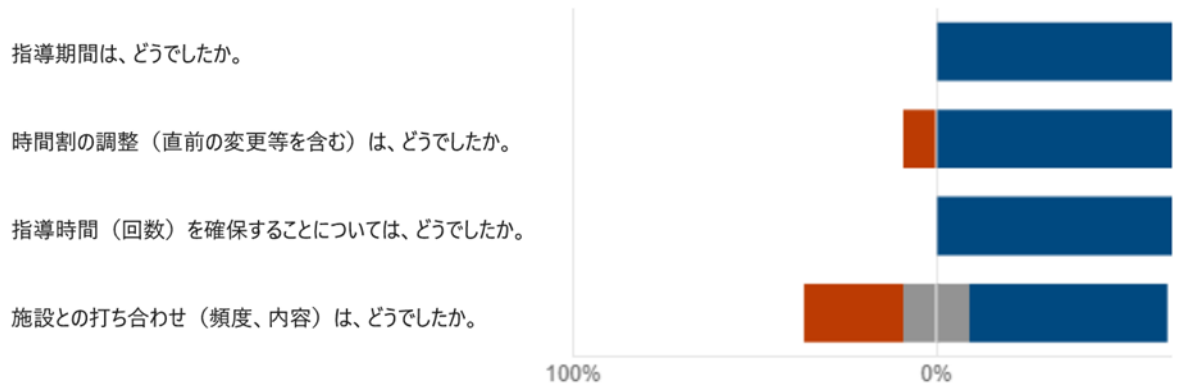


③【カリキュラムについて】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

(自校プールでの指導経験のある方は、校内調整・学年打合せ比較してください。)

■ よい ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ 課題あり

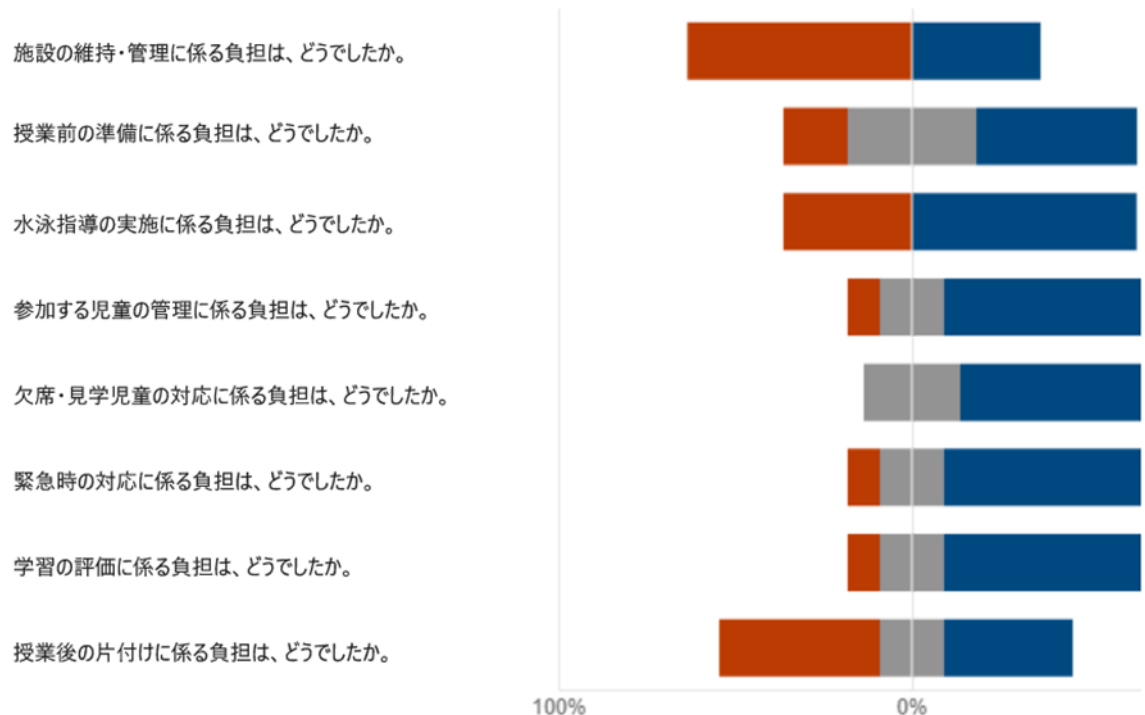


④【教員の負担軽減について】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

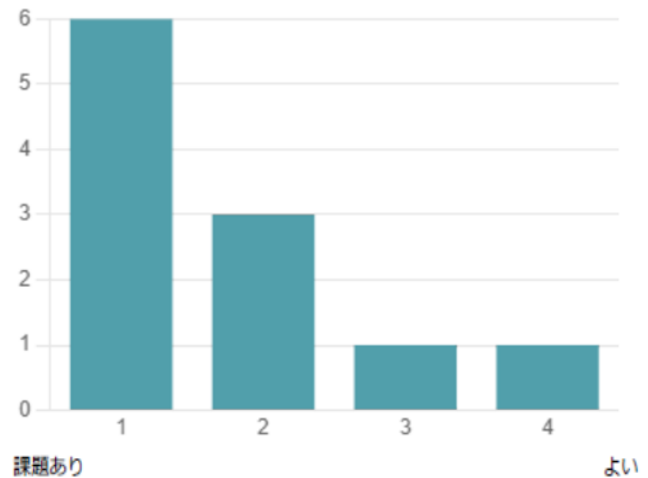
(自校プールでの指導経験のある方は、比較して回答してください。)

■ よい ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ 課題あり



⑤【その他】施設利用の継続性について、どのように考えますか。

1.73
平均評価



⑥【そのた】施設利用の継続性について、ご意見があれば入力してください。

- ・初めての試みだった為、詳細な時程表作成、指導、着替え、保護者への連絡、行き帰りの安全管理の決定に多大な労力を要した。自校に水泳施設がある学校に比べかなり負担が大きい。夏の気温が高い日に予定すると熱中症の危険もある。安全を確保できない。施設を提供して下さるのはありがたいが、もう少し現状を理解していただけるとありがたかった。今後は改善策を考えながら行うよう努める。
- ・3年生とはいえ、コロナ禍で学年全体での水泳指導を経験していない、感染症対策のために水位も足のくるぶしほどの量で水遊び程度しか経験していない児童たちを指導するために、本来なら入念な準備とシミュレーションが必要な中、利用する施設は閉館日の火曜しか下見ができず、また水位を減らすことで安全を確保することができなかったことは非常に残念でした。実際に、低身長の子たちの中には入水することが怖いと言っている児童もいました。また絶対に台から足を踏み外さないように、と緊張したとも話していました。児童の素直な気持ちだったと思います。それがたとえ、ごく一部だったとしても、少数だったとしても、児童に不安を与えるような水位での指導は厳しかったと考えます。
- ・週1・2回の指導で何が変わるのか。プールの使い方？安全な使い方？泳ぎ方？継続して使っていくならば、多くの課題を解決しなければいけないと思います。課題は、学校から汲み取っていますでしょうか。課題を把握してから継続性について検討してください。
- ・水深調節ができないことが課題である。低学年には危険である。
- ・専門的な指導は、プール施設のインストラクターに指導してもらいたい。施設にいて、様子を見ていて「これはない、こうした方がいい」と話をされても、教員は児童管理や安全確保で手一杯だったため。

<継続したい理由>教員の仕事軽減ができた。管理自体は、施設の方の管理下で行われていたので、その点においての負担がなくよかった。

<課題>時間数と人員の確保に課題がある。実施においては移動時間があるため、2時間の学習内容に対して、プラス1時間確保する必要がある。また、手隙の教員がいないため、移動までの安全管理には保護者の協力が不可欠である。また、学年合同での指導は人数が多すぎて難しく、教員数がとても少なかった。

<要望>施設利用だけでなく、他区でもあるように施設のインストラクターによる指導があると良い。やはり、よりの確な指導の下、泳力も身に付いている印象を受けるし、昨今の教員の水泳指導力には自身も含め課題があると感じる。

- ・水位を変えられないため、台を置いたとしても安全が確保しきれない。不安しかなかった。

⑦【その他】夏季休業中の水泳教室について、ご意見があれば入力してください。

- ・インストラクターによる適切な指導ならば、積極的に行ってほしい。
- ・昨今の家庭環境や家庭ごとの価値観の多様性、参加する児童とそうでない児童の差が大きく、必要性を感じない。

⑧【その他】プール施設（室内温水プール）について、ご意見があれば入力してください。

- ・気温や天候に左右されない室内プールが良いと考える。全校に設置が難しければ、拠点校などに設置するだけでも良いので。
- ・学校の冷たすぎるプール、日照りの強さは児童にとって水泳嫌いを助長する一つの課題だと感じているため、とても有難い施設だと思います。
- ・指導内容につて、適切でない旨のつぶやきをされていたとのことなので、今後継続するならご助言をいただけると助かる。事前の打ち合わせでは少人数での指導しかしていないのでわからないとのことだった。

保護者（回答 146人）

①【プールへの移動】

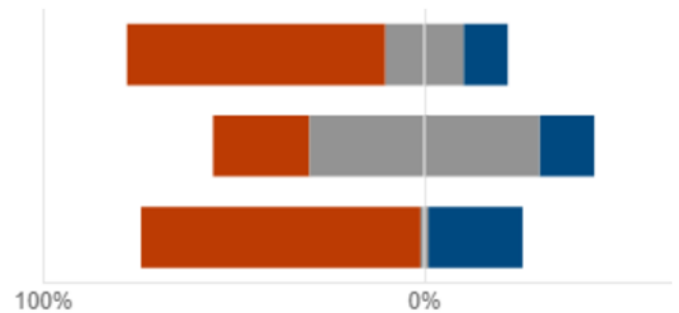
次の文について、当てはまるものを選んでください。

■ そう思う ■ そう思わない ■ 分からない

プールまで歩く時間は、ちょうどよい長さでしたか。

プールへ歩いて行くことは、大変でしたか。

プールに行くまで安全に歩けましたか。



②【授業について】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

■ そう思う ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ そう思わない ■ 分からない

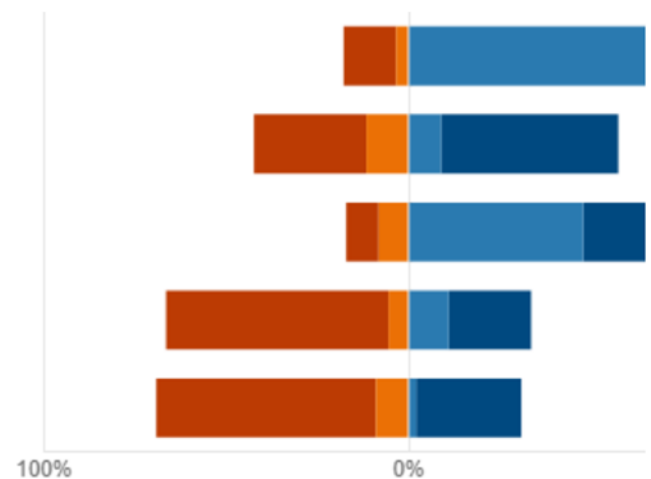
プールで学習する時間は、充分でしたか。

先生の教え方は分かりやすかったですか。

水の中での動き方や泳ぎ方が上手になったと思いますか。

プールの水の深さや温かさは、ちょうど良かったですか。

更衣室での着替えは、問題なくできましたか。



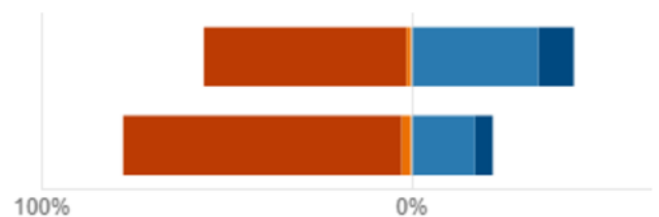
③【時期や時間について】

次の文について、当てはまるものを選んでください。

■ そう思う ■ 学校のプールでの授業と変わらない ■ そう思わない ■ 分からない

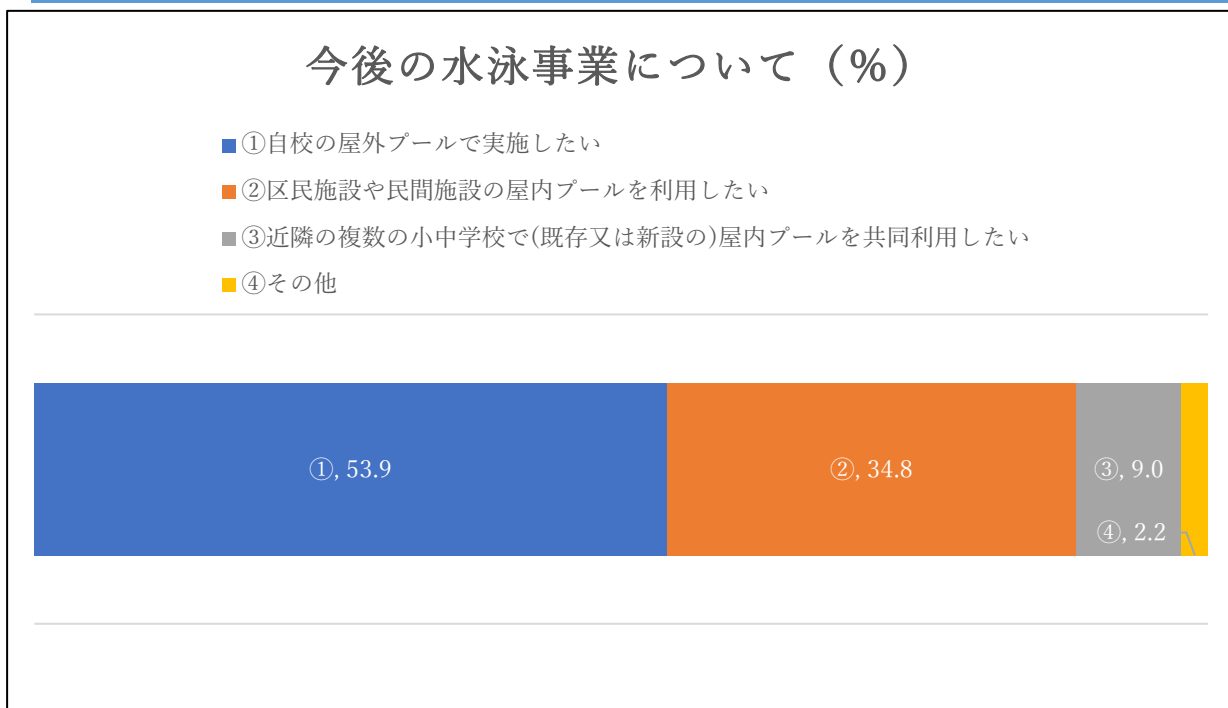
水泳の学習をする時期は、ちょうど良かったですか。

水泳の授業回数が多すぎたり少なすぎたりしませんでしたか。

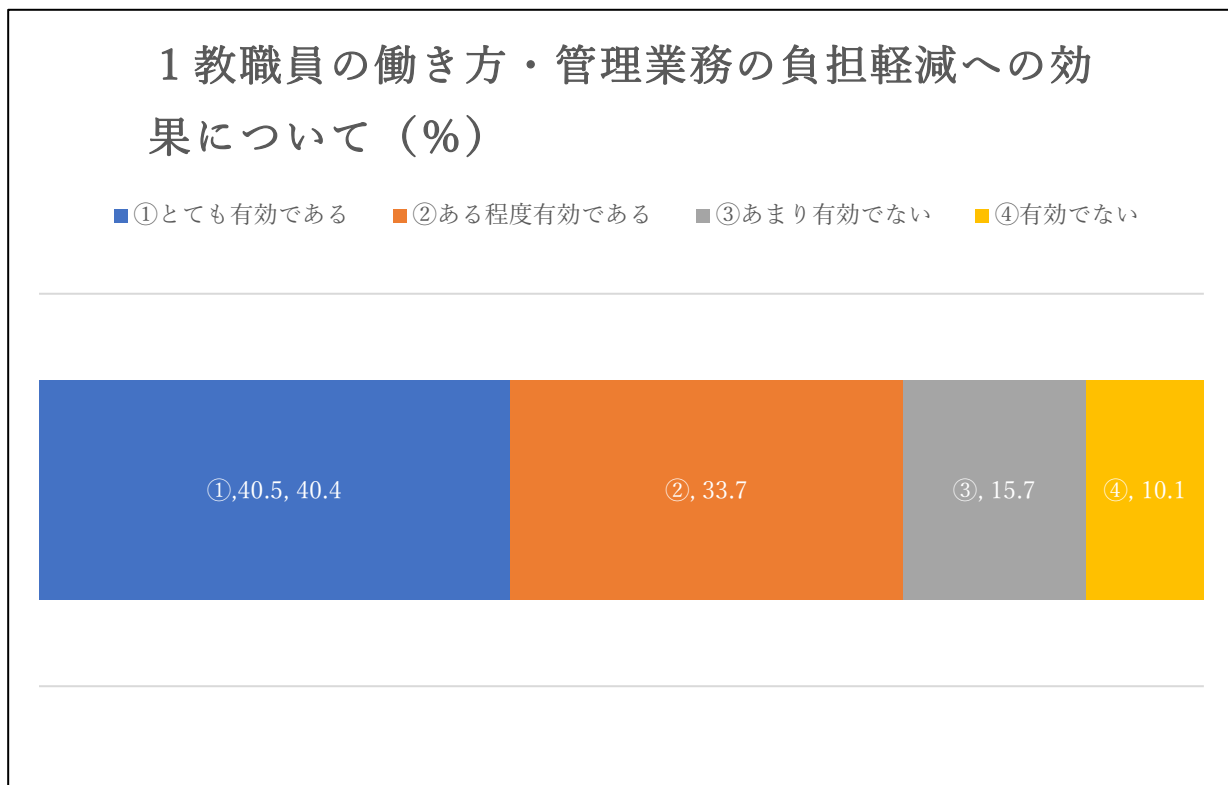


- ④【その他】施設利用の継続性について、ご意見があれば入力してください。
- ・回数が少ない。学校での水泳指導と同等の回数で指導をしてほしい。
 - ・夏休み前は気温も高く、施設移動中の暑さが心配でした。
 - ・天候に左右されず整った環境でプールの授業ができるので、とても良い取り組みだと思いました。
 - ・移動時間があるためプールに入っている実質時間が少なくなる。
- ⑤【その他】夏季休業中の水泳教室について、ご意見があれば入力してください。
- ・ぜひ実施してほしい。
 - ・屋根のないプールでは、昨今の猛暑では心配ですが、民間の施設を使っただけなのであれば、安心できるので嬉しいです。
 - ・夏季休業中は水泳教室はいりません。必要であれば各家庭で水泳教室に通っていると思う。
- ⑥【その他】プール施設（室内温水プール）について、ご意見があれば入力してください。
- ・温水プールであれば、年間通して実施してほしい。
 - ・室内温水プールなら、雨や気温などで中止になる事なく授業が受けられるので、とても良いと思います。
 - ・夏は高温を理由に何度も中止になっており、回数が少なすぎると感じています。室内温水プールを使い、もう少し回数を増やして頂きたいです。
 - ・プール授業の機会を増やすため、複数の施設を利用しても良いと思った。

「小学校プール施設のあり方の検討」に関する小中学校へのアンケート結果
(令和5年度実施)

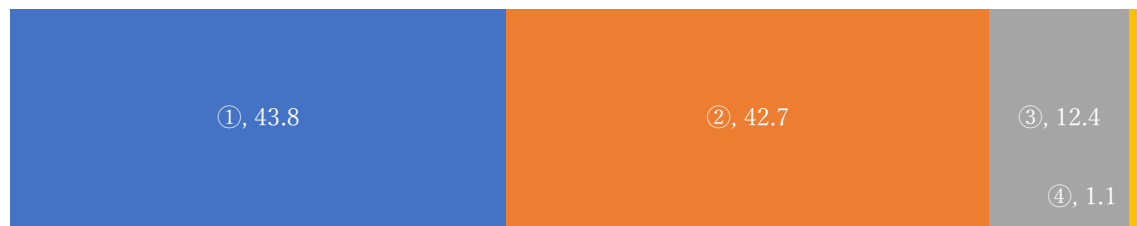


○屋内プールの共同利用について (1～10)



2 天候の影響を受けずに夏期に限らず1年中 計画的な水泳指導ができることについて (%)

■①効果が大きい ■②ある程度効果がある ■③あまり効果がない ■④効果がない



3 複数の学校で共同利用する場合、時間割の 調整等が学校間で必要になることについて (%)

※④は0%

■①かなり負担である ■②ある程度負担である ■③あまり負担でない ■④負担でない



4 移動が必要になることについて（移動距離は考慮に入れない）（%）※④は0%

■①かなり負担である ■②ある程度負担である ■③あまり負担でない ■④負担でない



5 移動が必要になることの懸念点について（%）

■①移動中の安全の確保
 ■②授業計画（水泳指導の時間、他の授業時間、休憩時間や給食時間など）への影響
 ■③欠席・見学児童への対応
 ■④その他



6 児童・生徒の徒歩の移動時間について（片道）（%）※④は0%

- ①5分以内なら許容範囲
- ②5分から10分以内なら許容範囲
- ③10分から15分以内なら許容範囲
- ④15分から20分以内なら許容範囲



7 児童・生徒のバスでの移動時間について（片道）（%）

- ①5分以内なら許容範囲
- ②5分から10分以内なら許容範囲
- ③10分から15分以内なら許容範囲
- ④15分から20分以内なら許容範囲



8 水泳授業の指導について (%)

- ①自校の教員が指導すべき
- ②民間のインストラクターに指導委託すべき
- ③教員と民間のインストラクターで共同で実施すべき
- ④その他



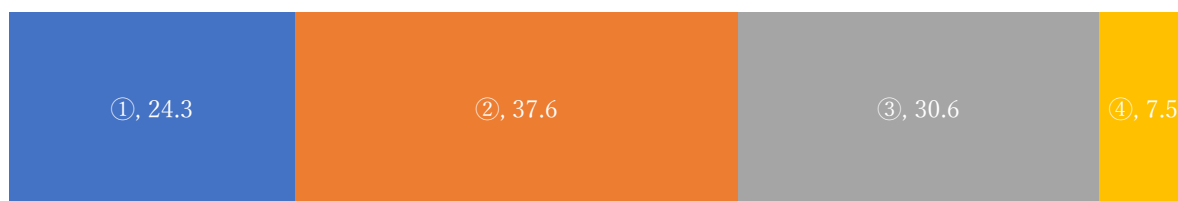
9 民間のインストラクターが指導するうえでの懸念点について (%)

- ①純粋な泳力向上だけでなく、学習指導要領に照らした指導までできるか疑問
- ②児童の性格や特性を考慮した指導までできるか疑問
- ③教員が児童の到達状況を把握しづらく、評価をつけることが難しい
- ④その他



10 教員が指導するうえで、感じている課題について (%)

- ①水泳授業を指導する専門性が不足している
- ②指導しながら、事故やけが等の安全管理にも配慮することが負担である
- ③配慮が必要な児童・生徒に注視することが難しい
- ④その他



区内屋内温水プール施設配置図

